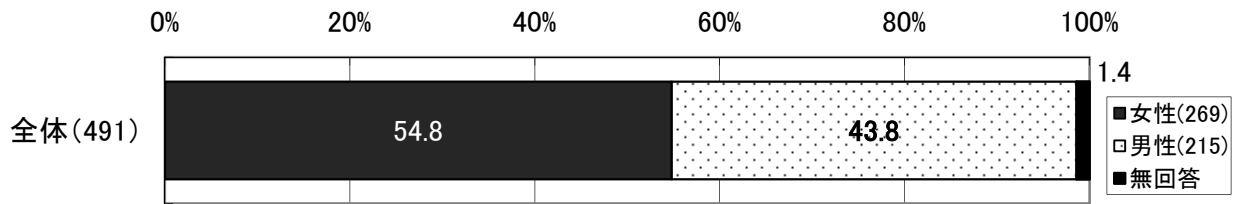


## 調査の結果



# 1. 回答者のプロフィール

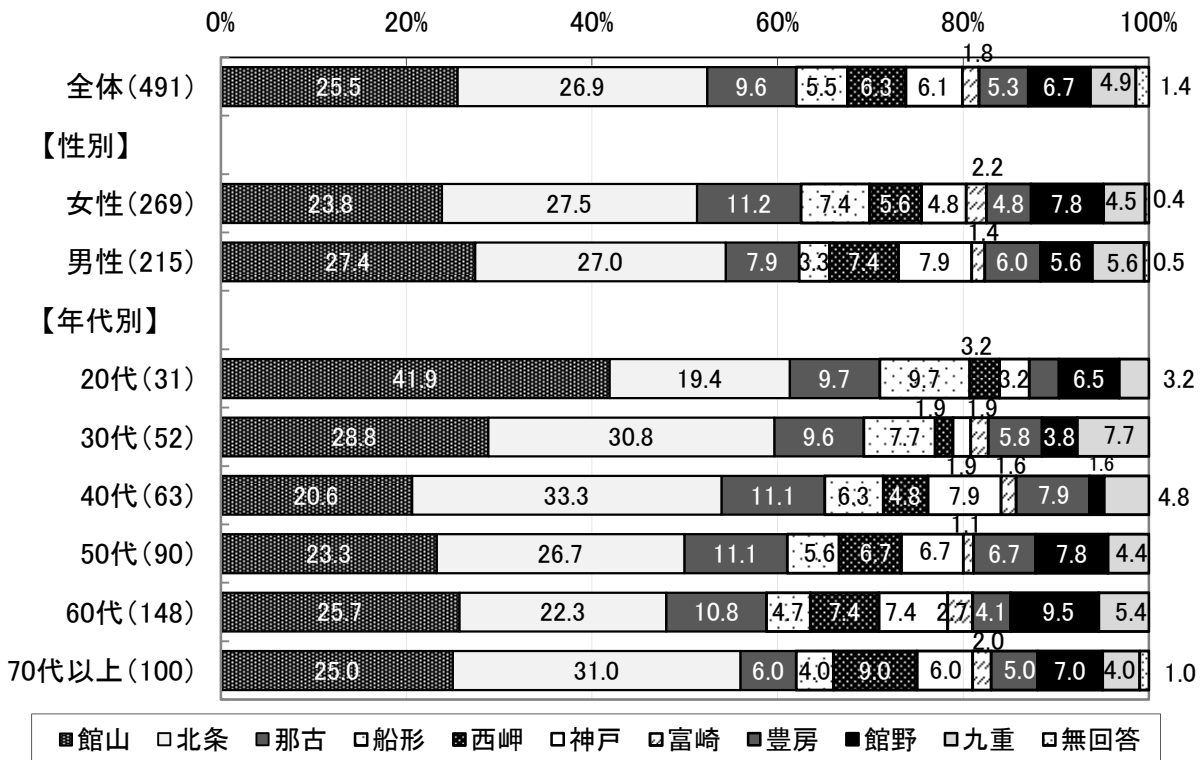
## (1) 性別



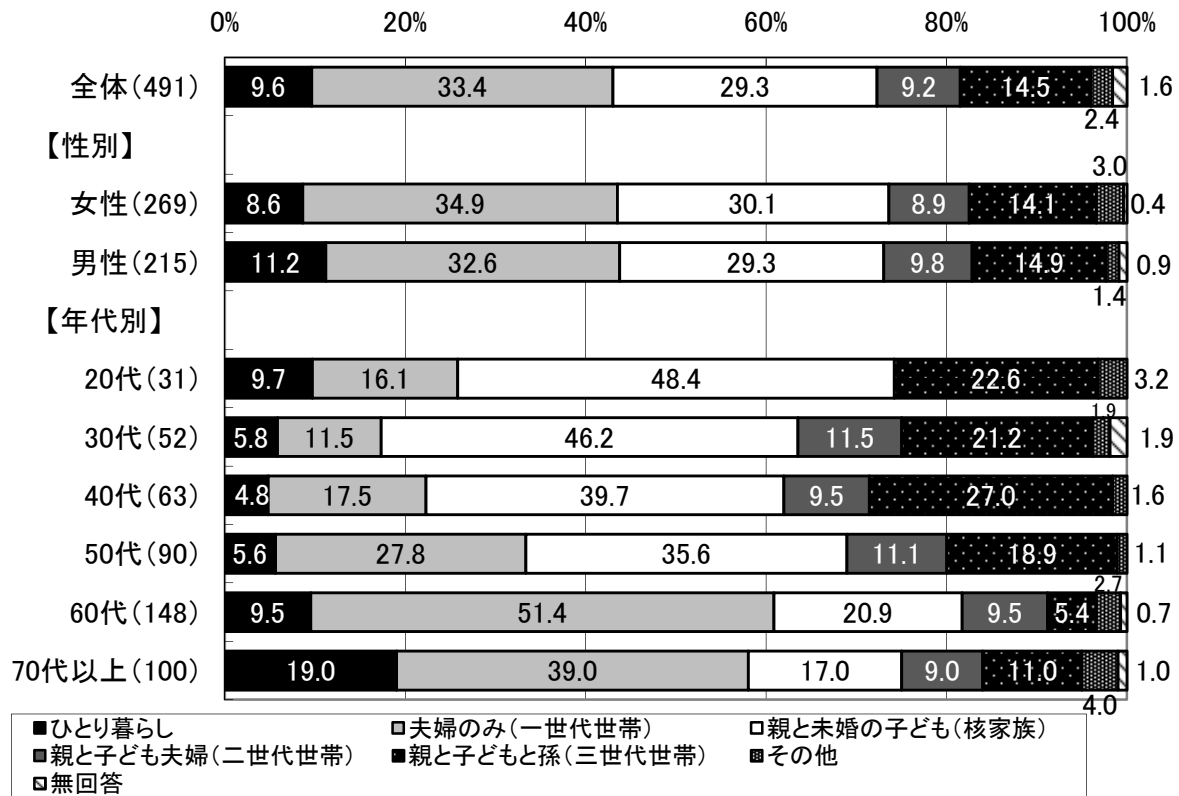
## (2) 年齢構成



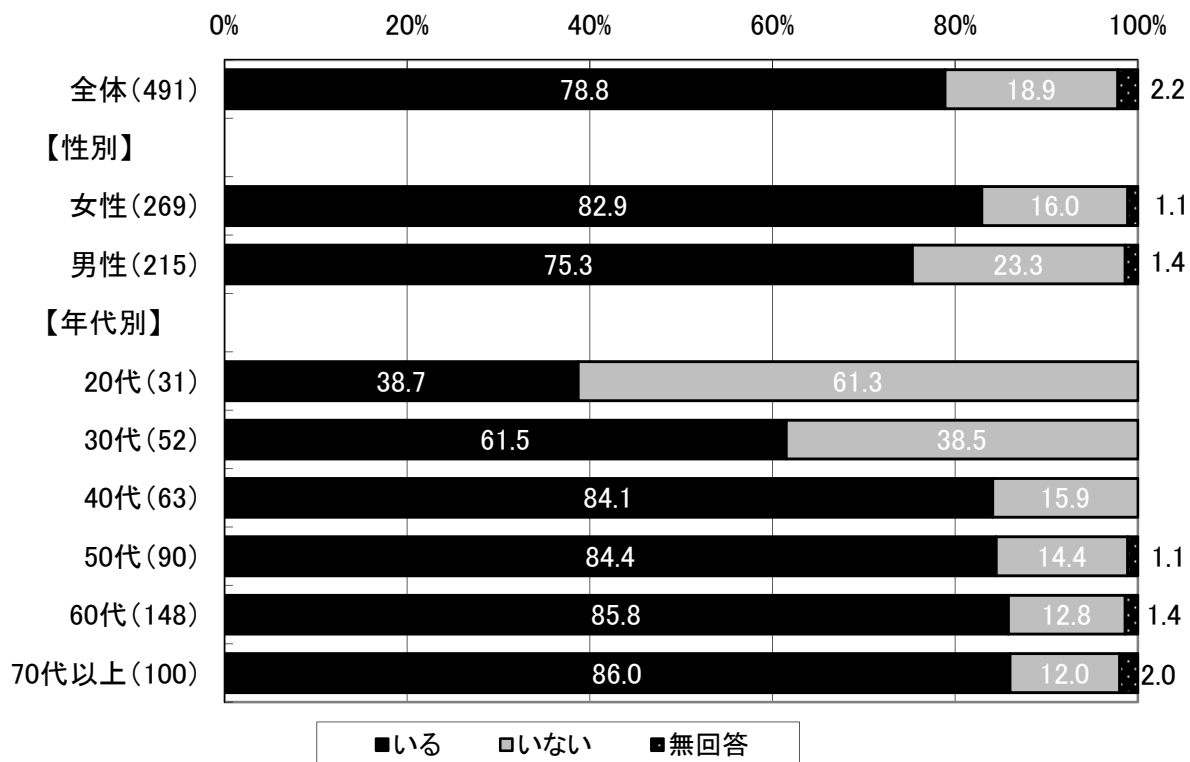
## (3) 地区構成



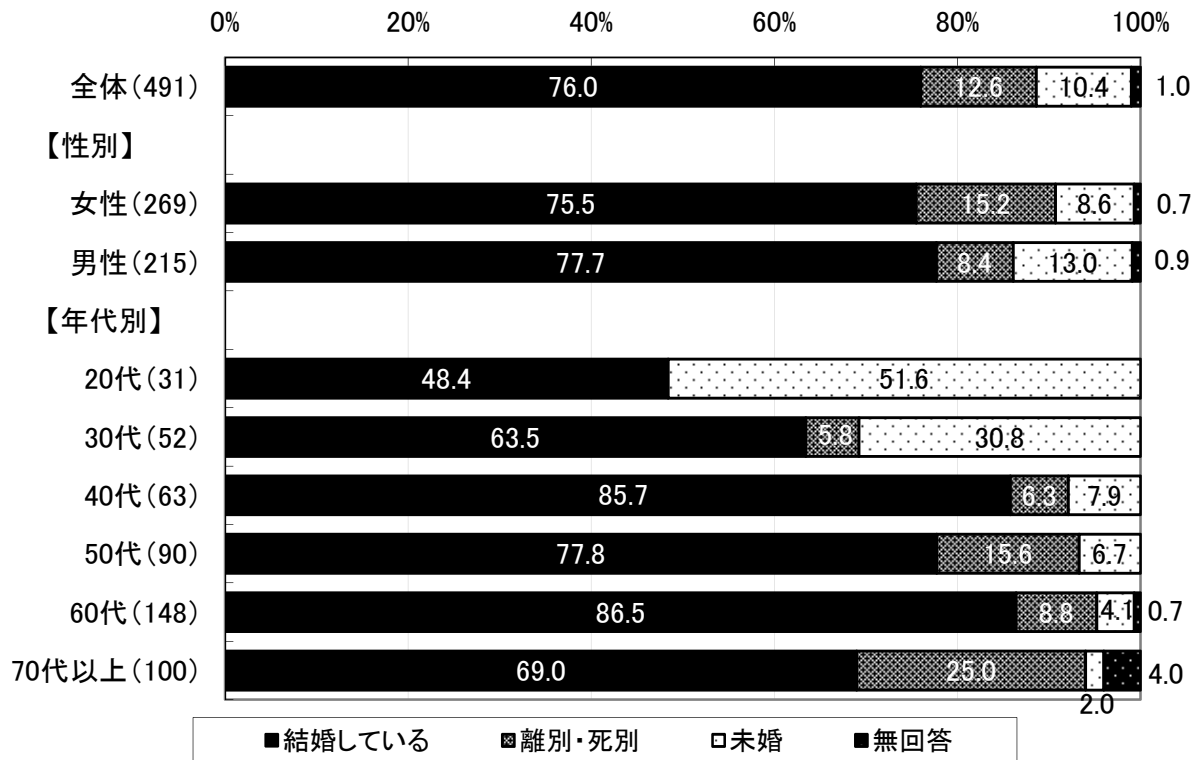
#### (4) 世帯構成



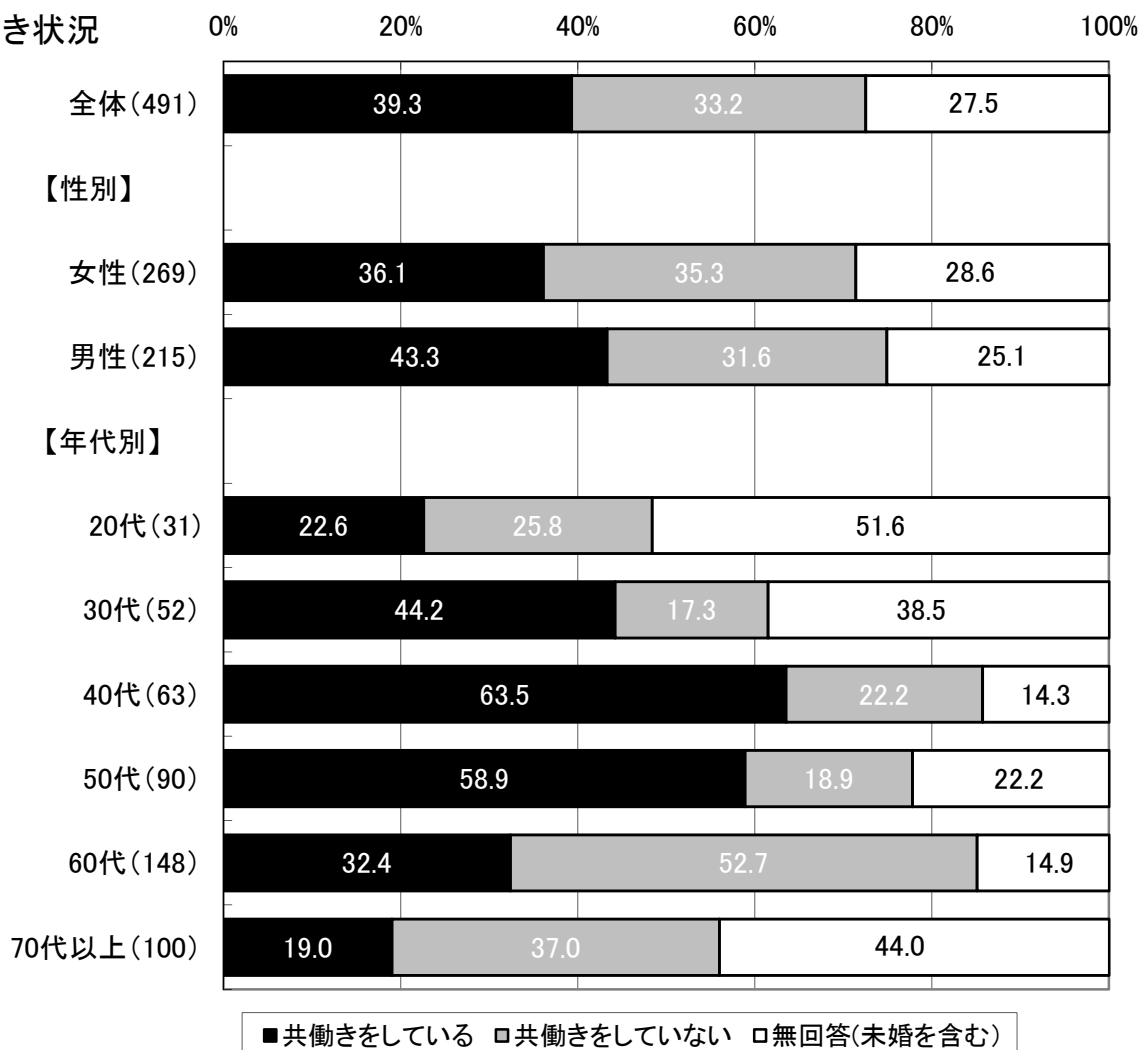
#### (5) 子どもの有無



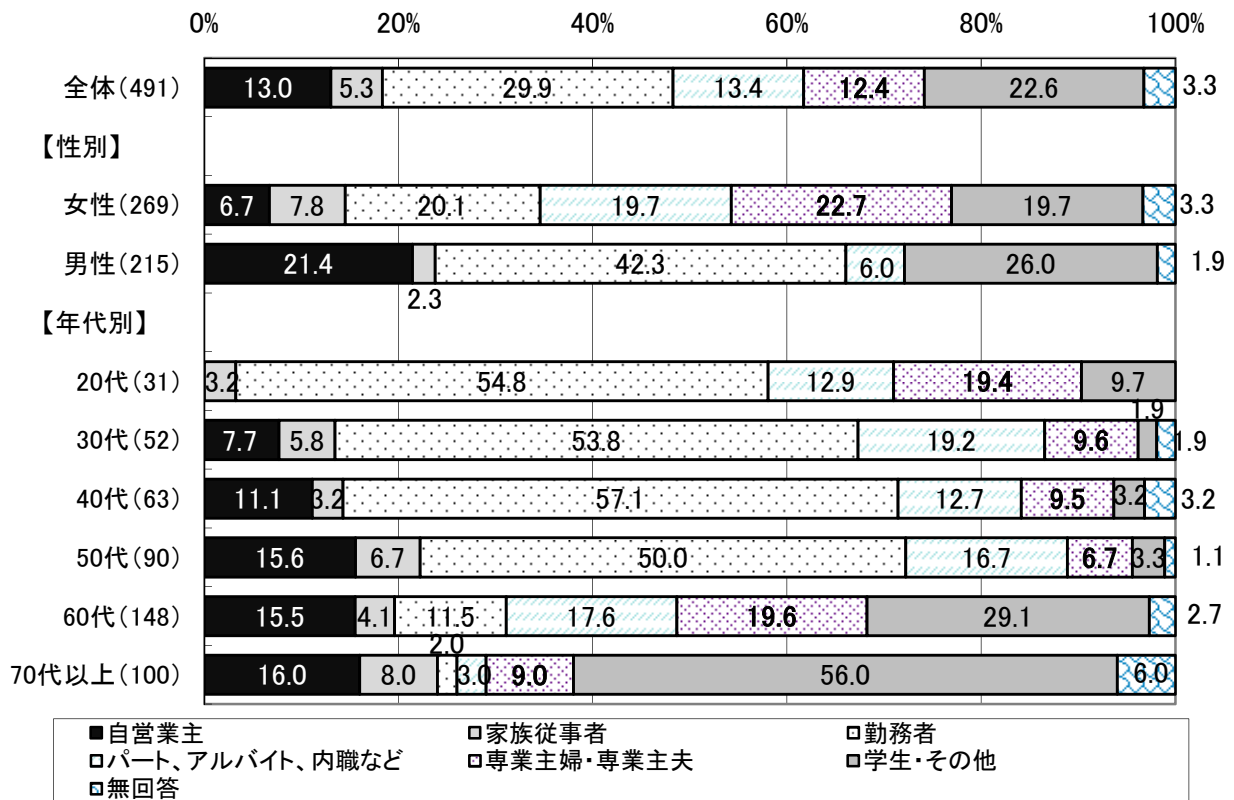
(6) 配偶者関係



(7) 共働き状況



(8) 職業構成

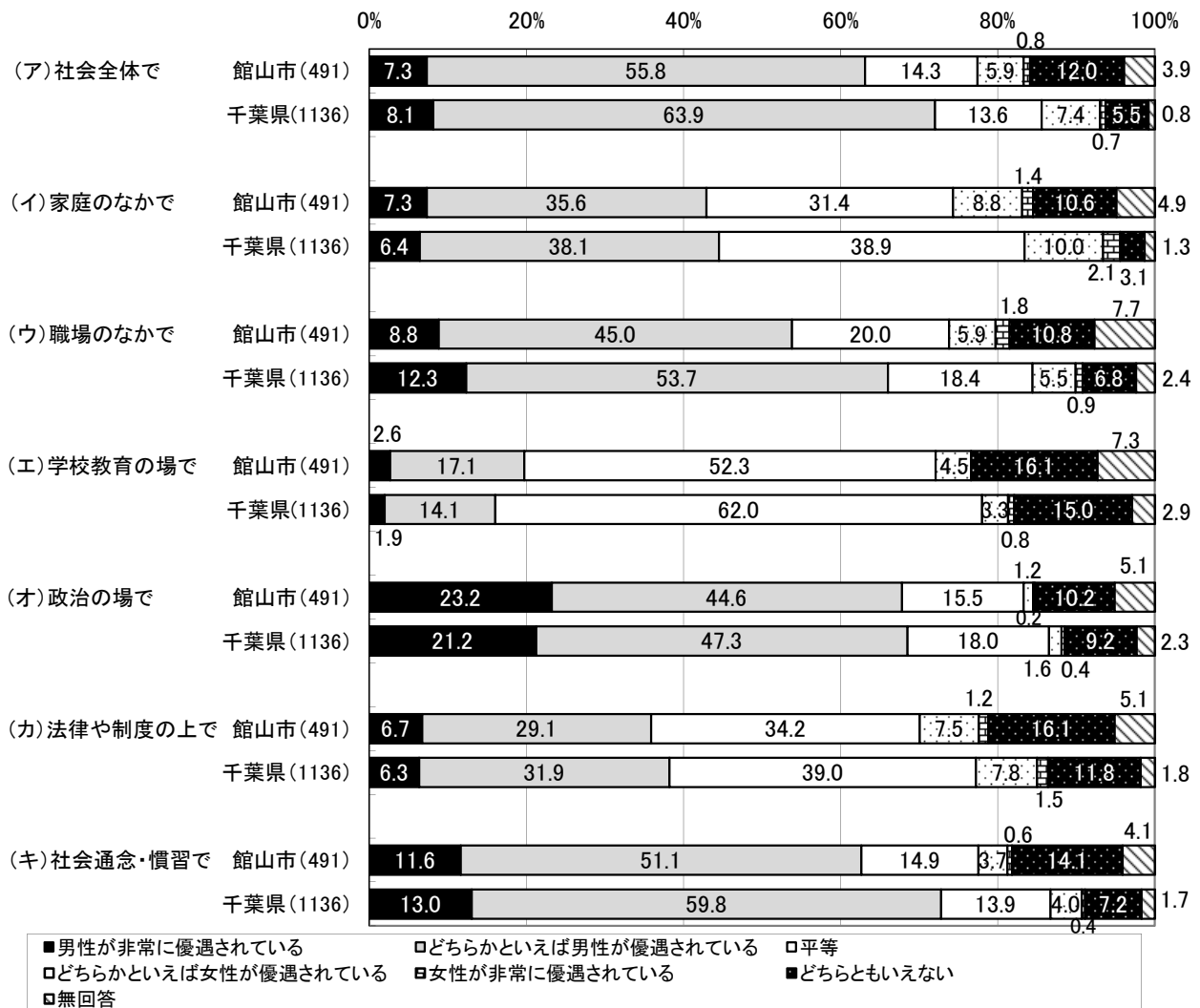


## 2. 男女平等意識

### 男女の平等意識

問1 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。次の(ア)～(キ)のそれぞれについてあなたの考えに最も近いものを1つずつ選んでください。

《男性優遇》の割合が高いのは、特に「社会全体で」、「政治の場で」、「社会通念・慣習で」においてである。



「社会全体で」、「家庭のなかで」、「職場のなかで」、「学校教育の場で」、「政治の場で」、「法律や制度の上で」、「社会通念・慣習で」の7分野について、男女の地位が平等になっているかどうかを聞いたところ、「学校教育の場で」を除くすべての分野で《男性優遇》と回答している割合が最も高くなっている。特に「社会全体で」、「政治の場で」、「社会通念・慣習で」は、6割以上の方が《男性優遇》と回答している。

一方、「学校教育の場で」は、半数以上の52.3%が『平等』と回答し、最も高くなっている。

#### 【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、若干の差はあるものの、すべての分野で千葉県とほぼ同じ意識の傾向がある。しかし、「社会全体で」、「家庭のなかで」、「職場のなかで」、「政治の場で」、「法律や制度の上で」、「社会通念・慣習で」の男女の地位が平等になっているかでは、館山市の方が《男性優遇》と回答している割合が低くなっている。また、「社会全体で」、「職場のなかで」、「社会通念・慣習で」は、館山市の方が『平等』と回答している割合が高くなっている。

- ・《男性優遇》＝「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計
- ・《女性優遇》＝「どちらかといえば女性が優遇されている」「女性が非常に優遇されている」の合計

**(ア) 社会全体で**

男女ともに不平等と感じる割合が高くなっているが、女性では71.0%が《男性優遇》と回答しているのに対し、男性は54.4%となっており、男女に差が見られる。前回の意識調査結果(女性74.8%、男性61.8%)からは女性3.8ポイント、男性7.4ポイントの減少となっている。

**【年代別】**

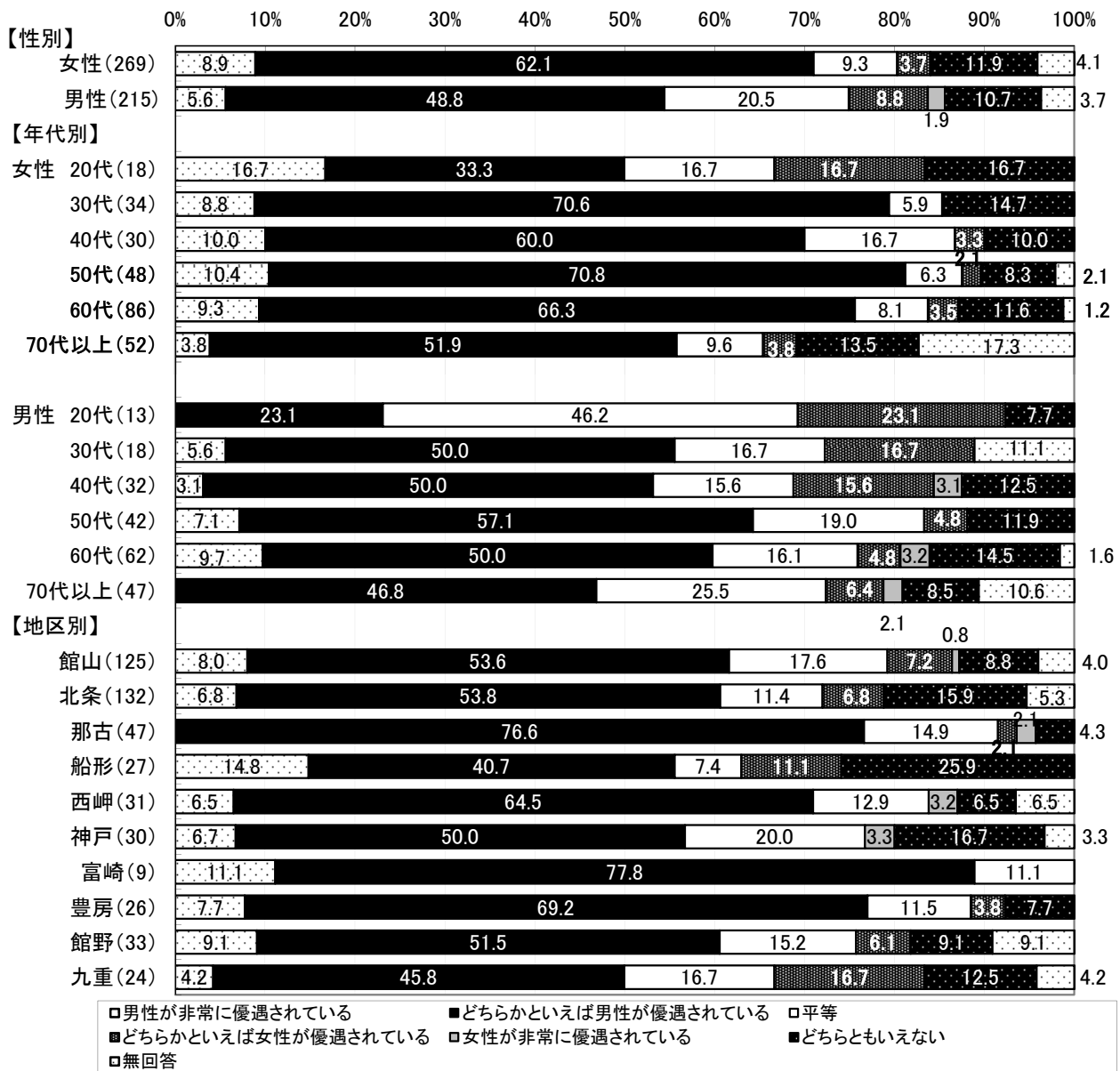
全体を通して《男性優遇》の割合が高く、中でも女性の50代(81.2%)、30代(79.4%)、60代(75.6%)が高くなっているのに対し、男性の20代が23.1%と最も低くなっており、男女の差が大きくなっている。

また、男女ともに20代での、『平等』(女性16.7%、男性46.2%)、及び《女性優遇》(女性16.7%、男性23.1%)の割合が、最も高くなっている。

**【地区別】**

全体を通じて《男性優遇》の割合が高くなっているが、「船形」、「神戸」、「九重」以外の地域で、《男性優遇》と回答した割合が6割を超える。

また、「九重」で、《女性優遇》と回答している割合が16.7%であり、最も高くなっている。





## (イ) 家庭のなかで

《男性優遇》と感じている割合は、女性の53.6%に対して、男性は30.2%にとどまっている。また、『平等』は女性の24.5%に対し、男性は40.5%となっており、かなりの差がある。

### 【年代別】

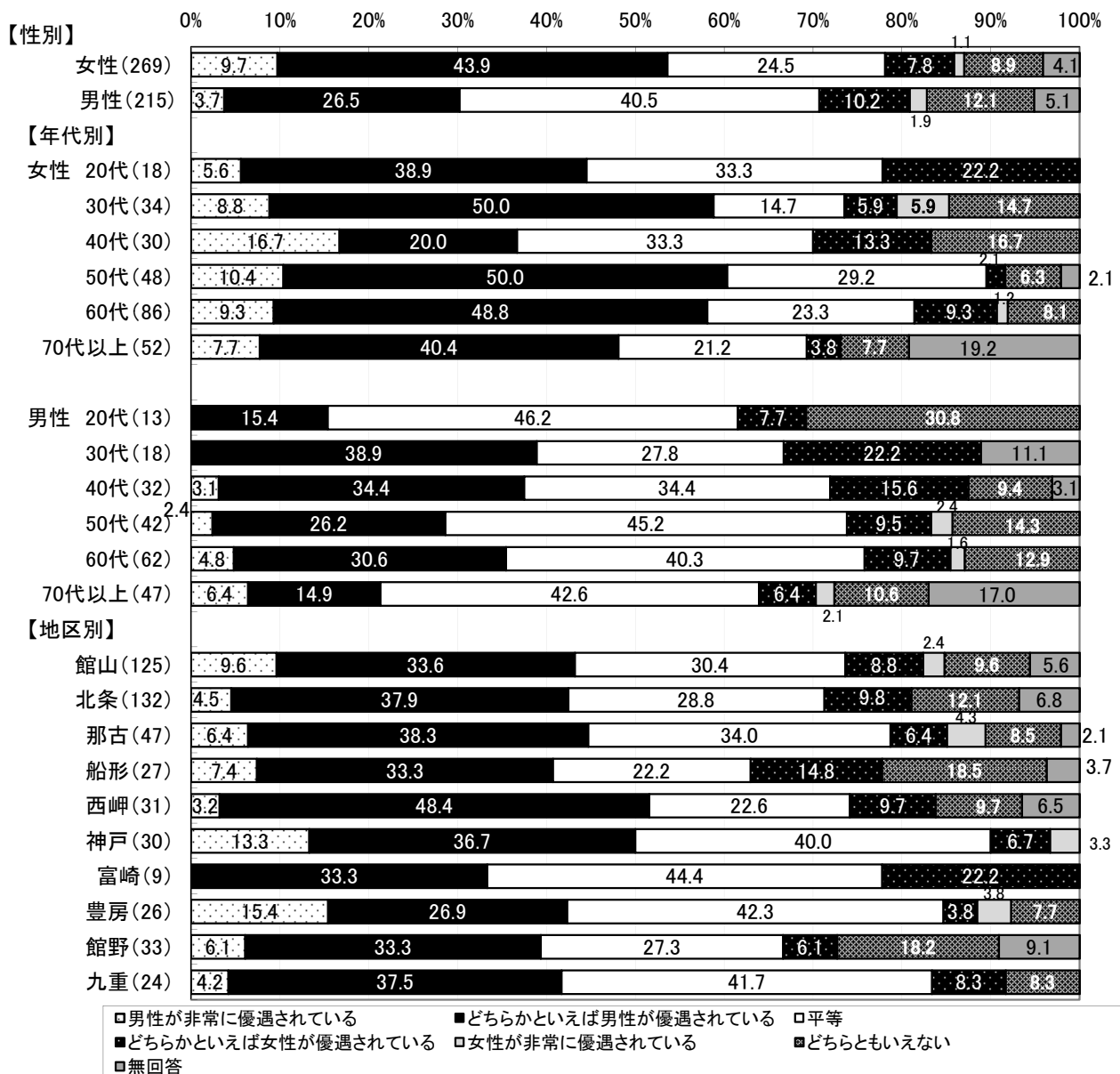
女性では、20代、40代、70代以上を除く、各年代で半数以上が《男性優遇》と回答しており、中でも50代(60.4%)で不平等感が最も強くなっている。

また、男性の30代、40代以外の各年代では、『平等』が《男性優遇》よりも高くなっている。

### 【地区別】

富崎以外の地区で《男性優遇》の割合が最も高くなっており、特に「西岬」では、51.6%と最も高くなっている。

また、『平等』と回答している割合は、「富崎」が最も高く44.4%であるのに対し、「船形」は最も低く22.2%となっている。その差は22.2ポイントであり、地区による差がみられるものの、『平等』の割合は、前回の調査よりも、全ての地区で増加している。



### (ウ) 職場のなかで

女性の56.1%、男性の52.1%が《男性優遇》と回答しており、不平等と感じている割合が女性の方が4.0ポイント高く、男女の差がみられる。

#### 【年代別】

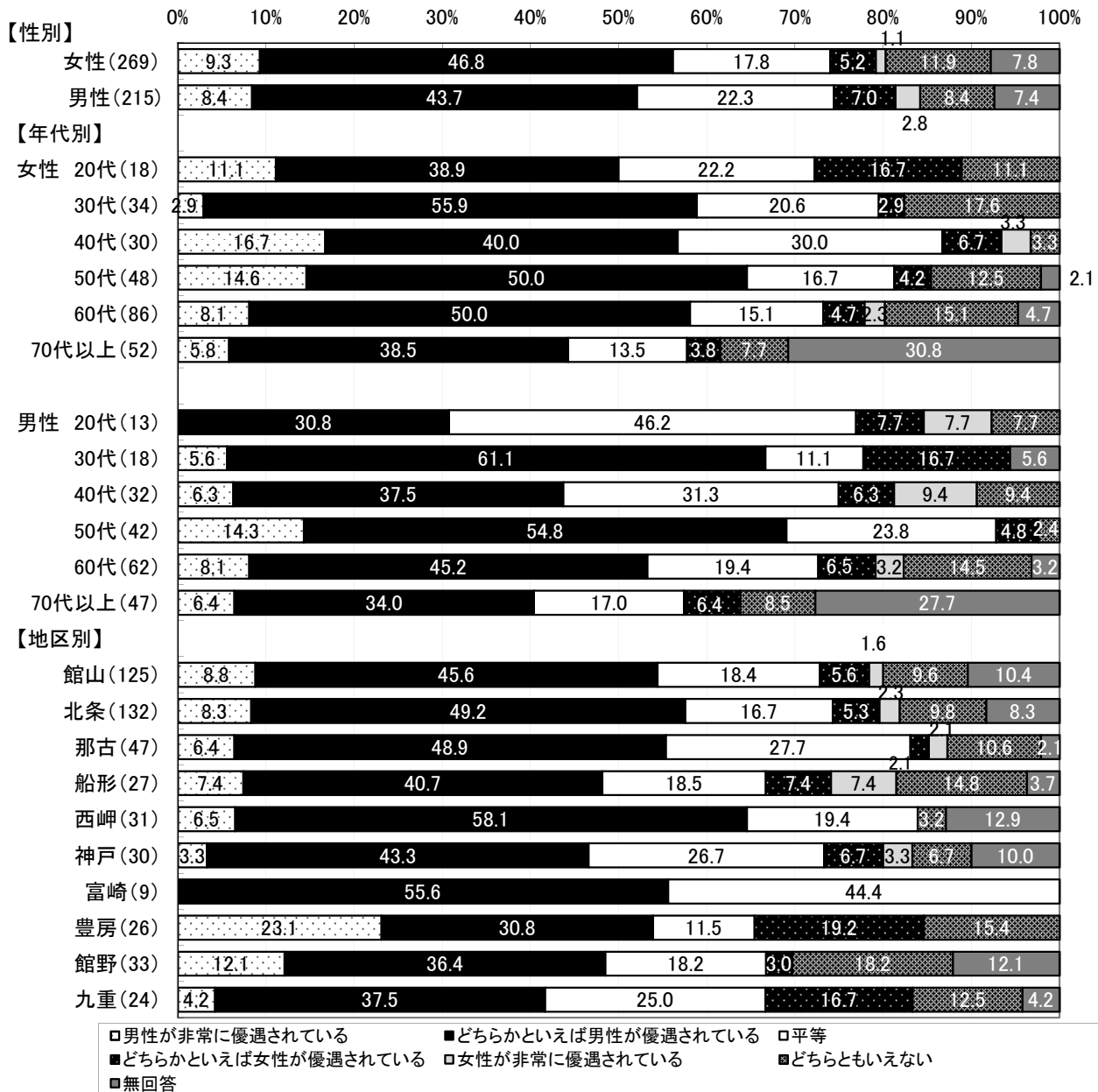
女性70代以上、男性20代、40代、70代以上を除くすべての年代で《男性優遇》と回答している割合が半数以上となっており、中でも男性50代(69.1%)で最も高くなっている。

『平等』と回答している割合は、男性の20代(46.2%)で最も高く、《男性優遇》(30.8%)より高くなっている。

#### 【地区別】

すべての地区で《男性優遇》と回答している割合が4割を超え高くなっており、特に「西岬」(64.6%)が最も高くなっている。

また、『平等』と回答している割合は、「富崎」(44.4%)が最も高く、「豊房」(11.5%)が最も低くなっている。



## (エ) 学校教育の場で

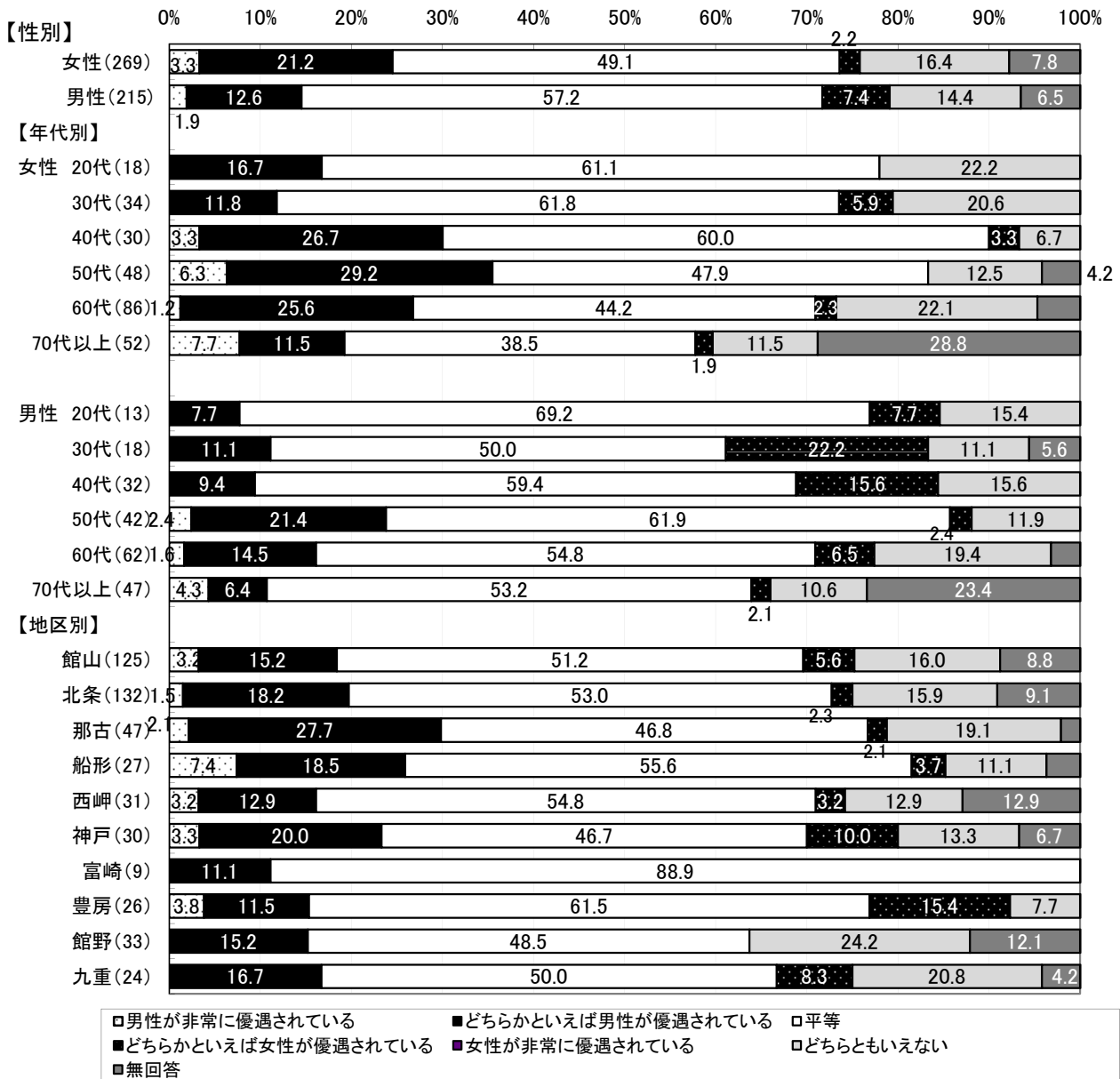
この項目のみ、『平等』が女性49.1%、男性57.2%となっており、《男性優遇》(女性24.5%、男性14.5%)をそれぞれ大きく上回っている。

### 【年代別】

女性の50代、60代、70代以上を除く全ての年代で『平等』が半数以上となっている。特に、男性の20代が69.2%と、他の年代に比べ高くなっている。

### 【地区別】

「那古」、「神戸」、「館野」を除く全ての地区で『平等』が半数以上となっている。また、「那古」では、《男性優遇》と感じている割合が29.8%と他の地区よりも高くなっている。



### 【オ）政治の場で

女性では74.0%が《男性優遇》と回答しているのに対し、男性は61.4%となっている。また、『平等』は女性10.8%であるのに対し、男性では20.9%となっており、男女間に差がみられる。

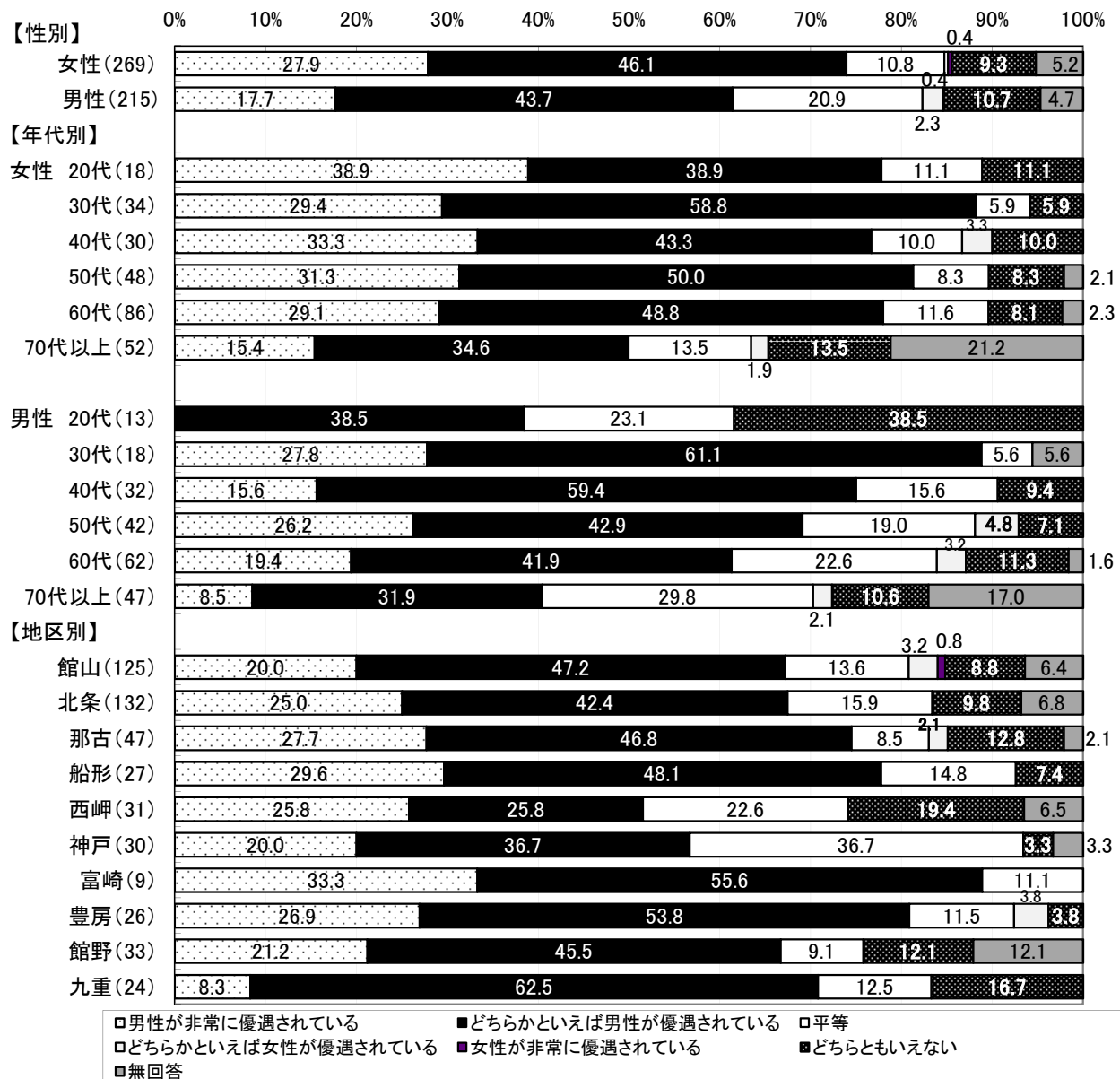
#### 【年代別】

男性の20代、70代以上を除くすべての年代で、《男性優遇》と回答している割合が半数以上となっている。

男性70代以上は、『平等』と回答した割合が29.8%と最も高くなっている。

#### 【地区別】

全ての地区で、《男性優遇》と回答している割合が半数を超えている。「富崎」が最も高く88.9%であるのに対し、「西岬」は51.6%と最も低く、その差は37.3ポイントであり、地区により意識の差が大きくなっている。



## (カ) 法律や制度の上で

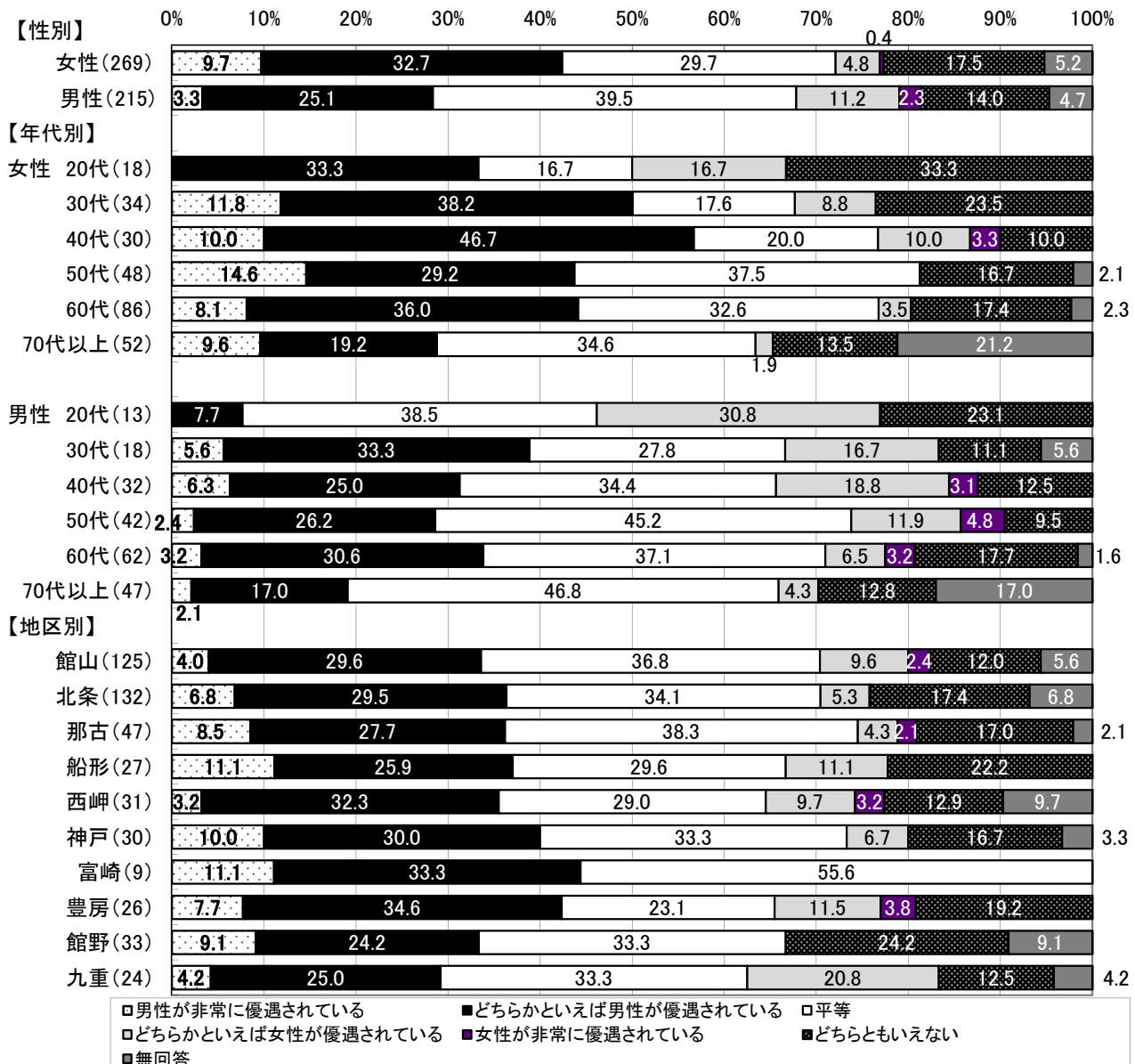
女性では42.4%が《男性優遇》と回答しているのに対し、男性では28.4%となっている。また、『平等』は女性が29.7%に対し、男性が39.5%となっており、男女で意識の差がみられる。

### 【年代別】

女性は『平等』と回答する割合が20代で16.7%と最も低いのに対し、最も高い女性50代は37.5%と、世代間で差がみられる。男性は、20代で『どちらかといえば女性が優遇されている』(30.8%)と他の年代に比べて高くなっている。

### 【地区別】

地区により意識の差が異なり、「富崎」で『平等』と回答した割合(55.6%)が最も高くなっているのに対し、「豊房」(23.1%)が最も低くなっている。



**(キ) 社会通念・慣習で**

女性の66.6%、男性の59.5%が《男性優遇》と回答しており、男女とも不平等と感じている割合が高くなっている。

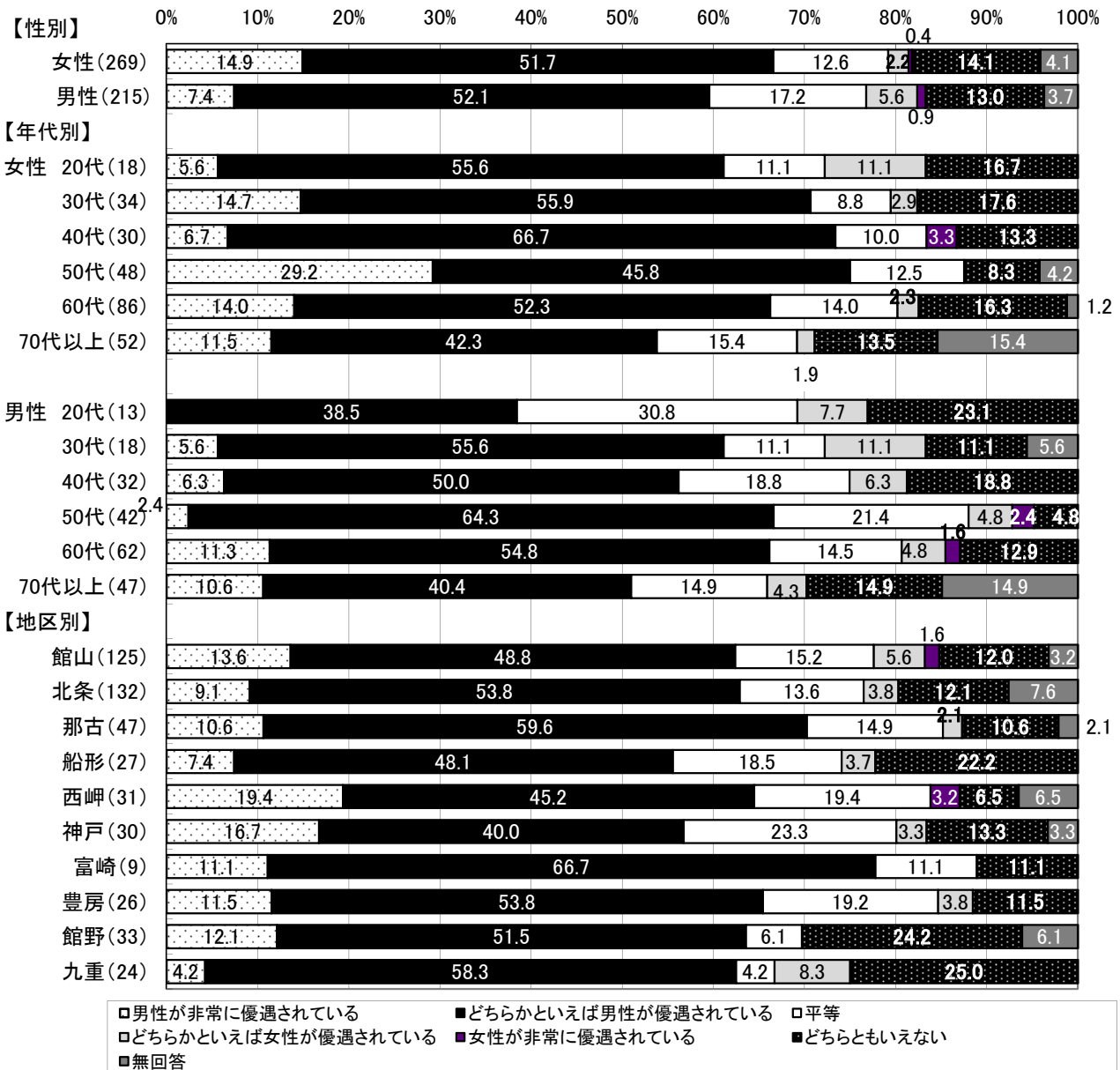
**【年代別】**

女性の30代(70.6%)、40代(73.4%)、50代(75.0%)で《男性優遇》と回答している割合が、7割以上と高くなっている。

また、『平等』と回答している割合は、男性の20代(30.8%)で最も高くなっている。

**【地区別】**

すべての地区で、半数以上が《男性優遇》と回答している。しかし、「富崎」で《男性優遇》と回答している割合が77.8%と最も高いのに対し、「船形」では55.5%と最も低くなっており、その差は22.3ポイントと大きくなっている。

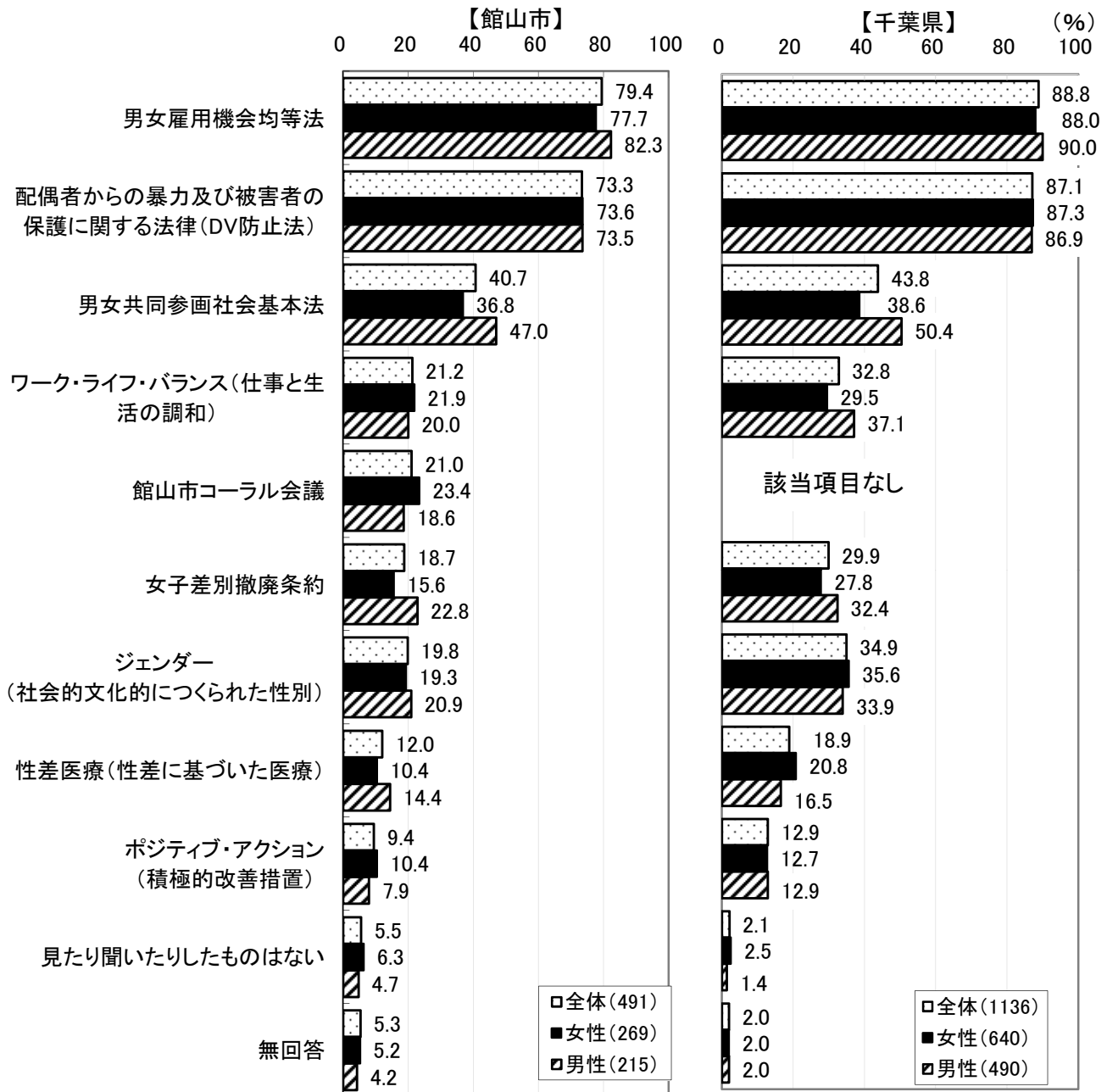


### 3. 用語の周知度

#### 用語の周知度

問2 次にあげる言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。次の中から該当するものすべてを選んでください。

用語の周知度が最も高いのは、『男女雇用機会均等法』である。  
次に高いDV防止法とともに、7割以上の人に認知されている。



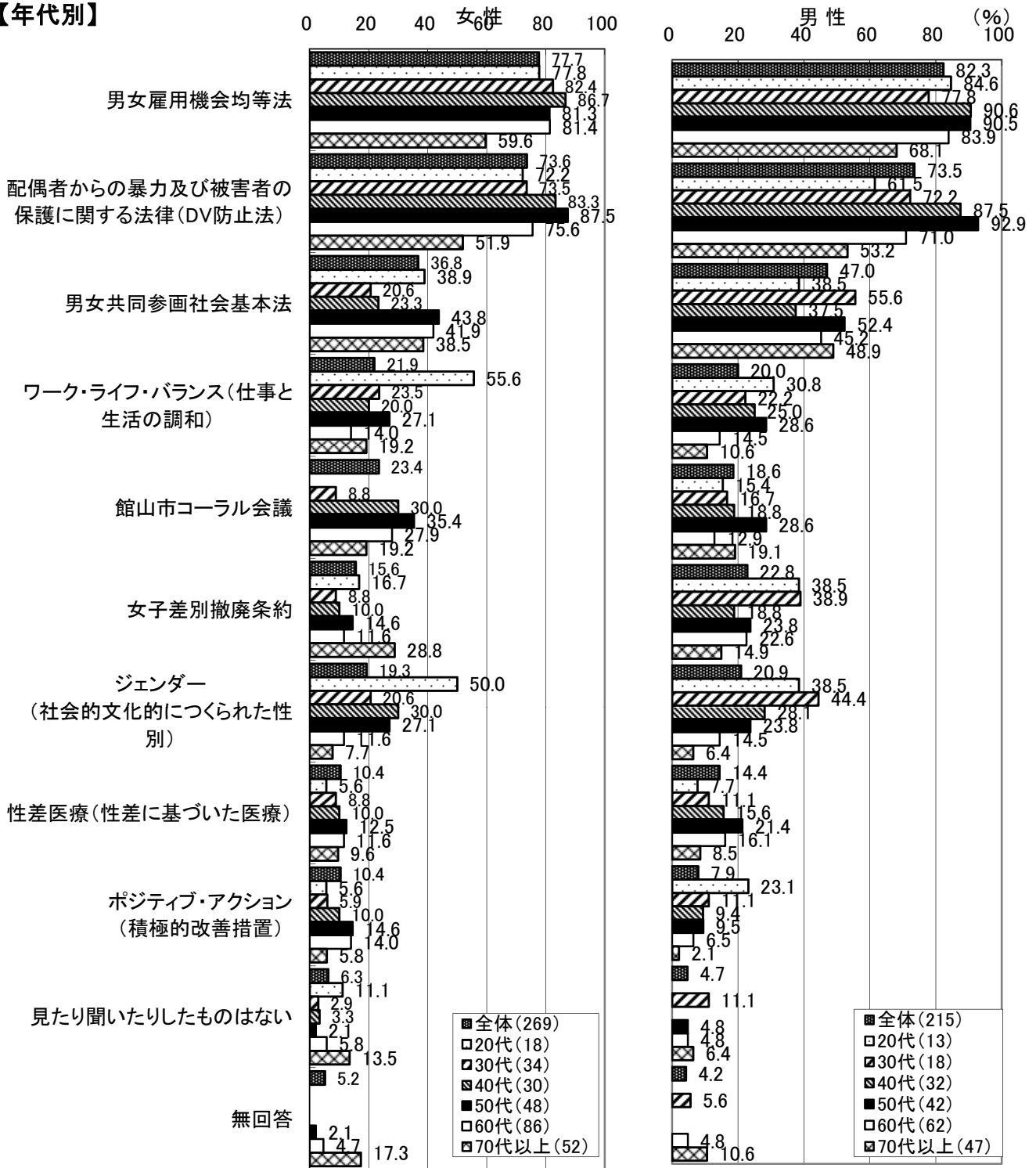
用語の周知度については、男女とも『男女雇用機会均等法』(女性77.7%、男性82.3%)と回答している割合が最も高く、全体だと前回(75.6%)から今回(79.4%)と3.8ポイントの増加となっている。

また、次に高い周知度となった『配偶者からの暴力及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)』(女性73.6%、男性73.5%)についても男女ともに高い割合となっている。

#### 【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、共通する項目の全てにおいて、館山市の方が千葉県より低くなっている。

【年代別】



※数値が0.0%の年代については記載していない。

『男女雇用機会均等法』及び『配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)』は、男女とも各年代で回答している割合が半数を超えて高くなっているものの、女性の70代以上(59.6%、51.9%)が極端に低くなっている。



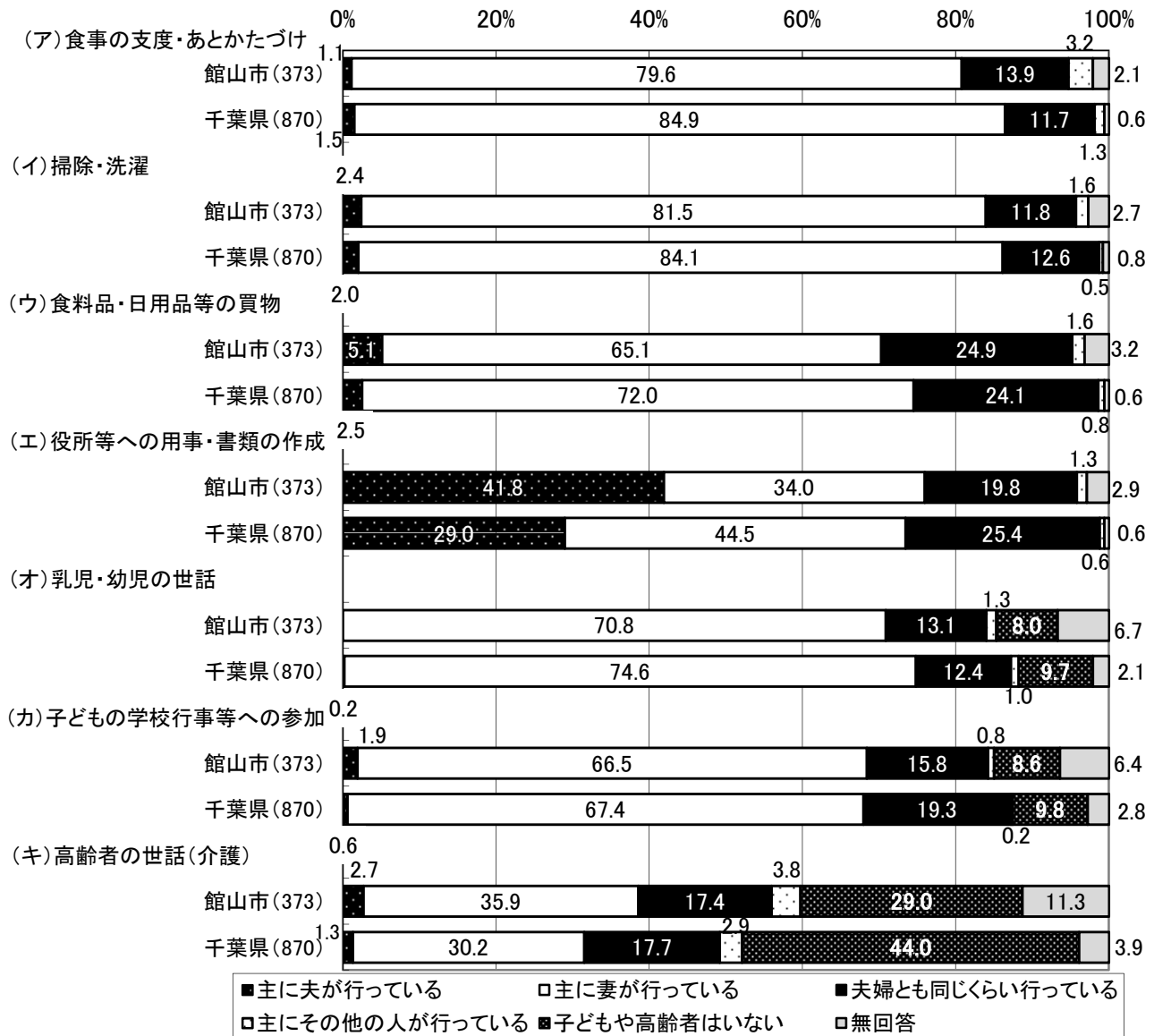
## 4. 家庭生活

### (1) 家事等の役割分担

問5 問3で「1. 結婚している」とお答えの方に伺います。

あなたのご家庭では、次の(ア)～(キ)にあげるような日常的な仕事は、主にどなたがしていますか。次の中から1つずつ選んでください。

日常的な家事や育児は妻の役割が高い。



男女の役割について、既婚者に日常的な家庭の仕事7項目について、主に誰が分担しているかを聞いたところ、「食事の支度・あとかたづけ」(79.6%)、「掃除・洗濯」(81.5%)、「乳児・幼児の世話」(70.8%)は『主に妻が行っている』と回答しており、妻の役割分担が大きくなっている。

「役所等への用事・書類の作成」については、『主に妻が行っている』と回答している割合は34.0%にとどまり、『主に夫が行っている』が41.8%と、前回の結果(35.5%、40.3%)から逆転する結果となった。この項目については、他の項目に比べ、夫の役割分担が非常に高くなっている。

#### 【千葉県調査との比較】

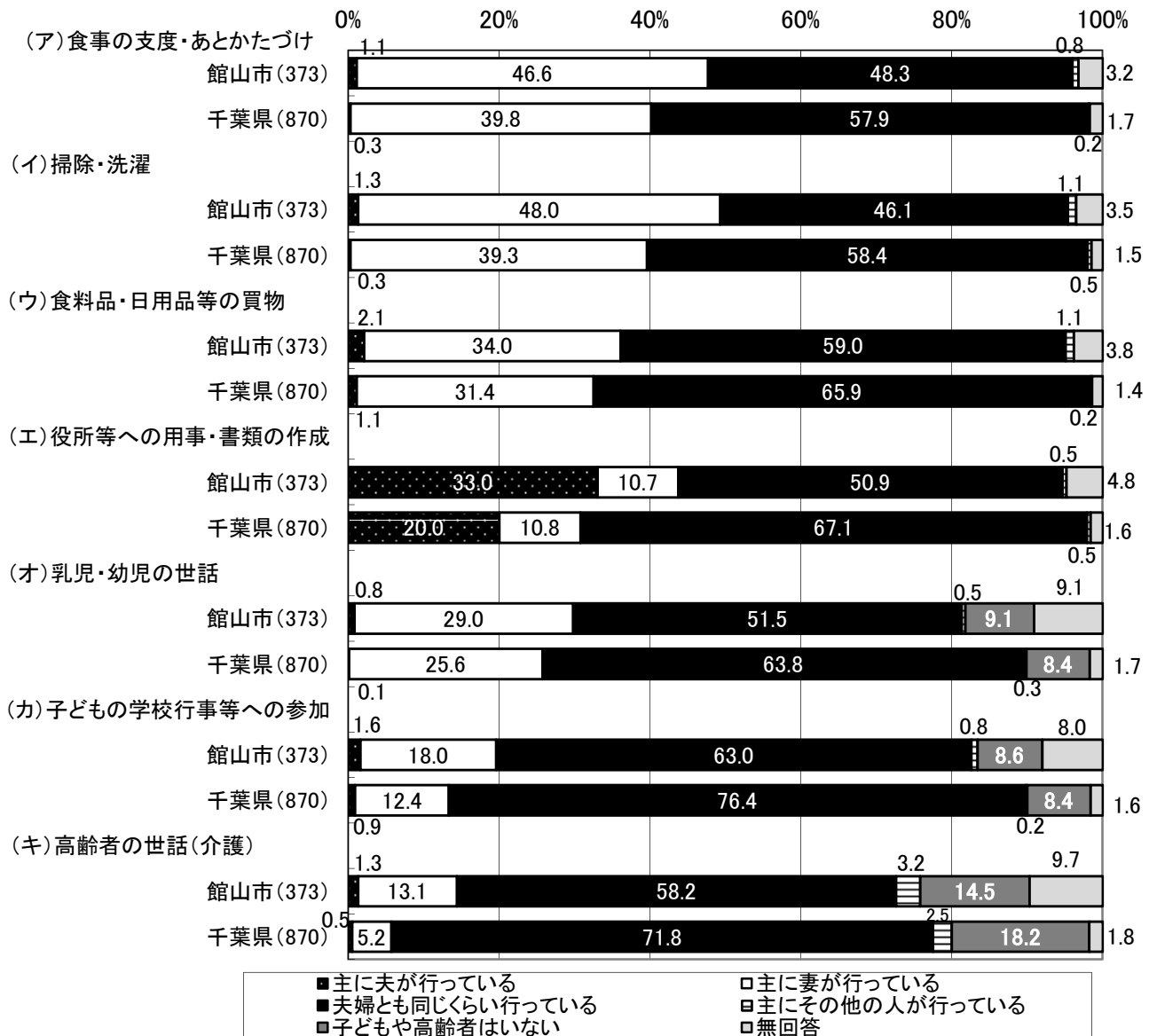
千葉県調査と比較すると、前回同様、高齢者の世話(介護)を除くすべての項目で、『主に妻が行っている』と回答している割合は、館山市の方が低くなっている。

## (2) 理想的な家事等の役割分担

問6 問3で「1. 結婚している」とお答えの方に伺います。

では、あなたは理想として、次の(ア)～(キ)にあげるような日常的な仕事は、どのように分担するのがよいと思いますか。次の中から1つずつ選んでください。

理想では、「掃除・洗濯」は『主に妻』、それ以外の日常的な仕事は『夫婦とも』の割合が高い。



家事等の役割分担に関する理想を聞いたところ、「掃除・洗濯」を除いた全ての項目で、『主に妻が行う』よりも『夫婦とも同じくらい行う』と回答している割合が高くなっている。特に、「子どもの学校行事等への参加」(63.0%)、「食料品・日用品等の買い物」(59.0%)、「高齢者の世話(介護)」(58.2%)では、前回に引き続き高くなっている。

### 【千葉県調査との比較】

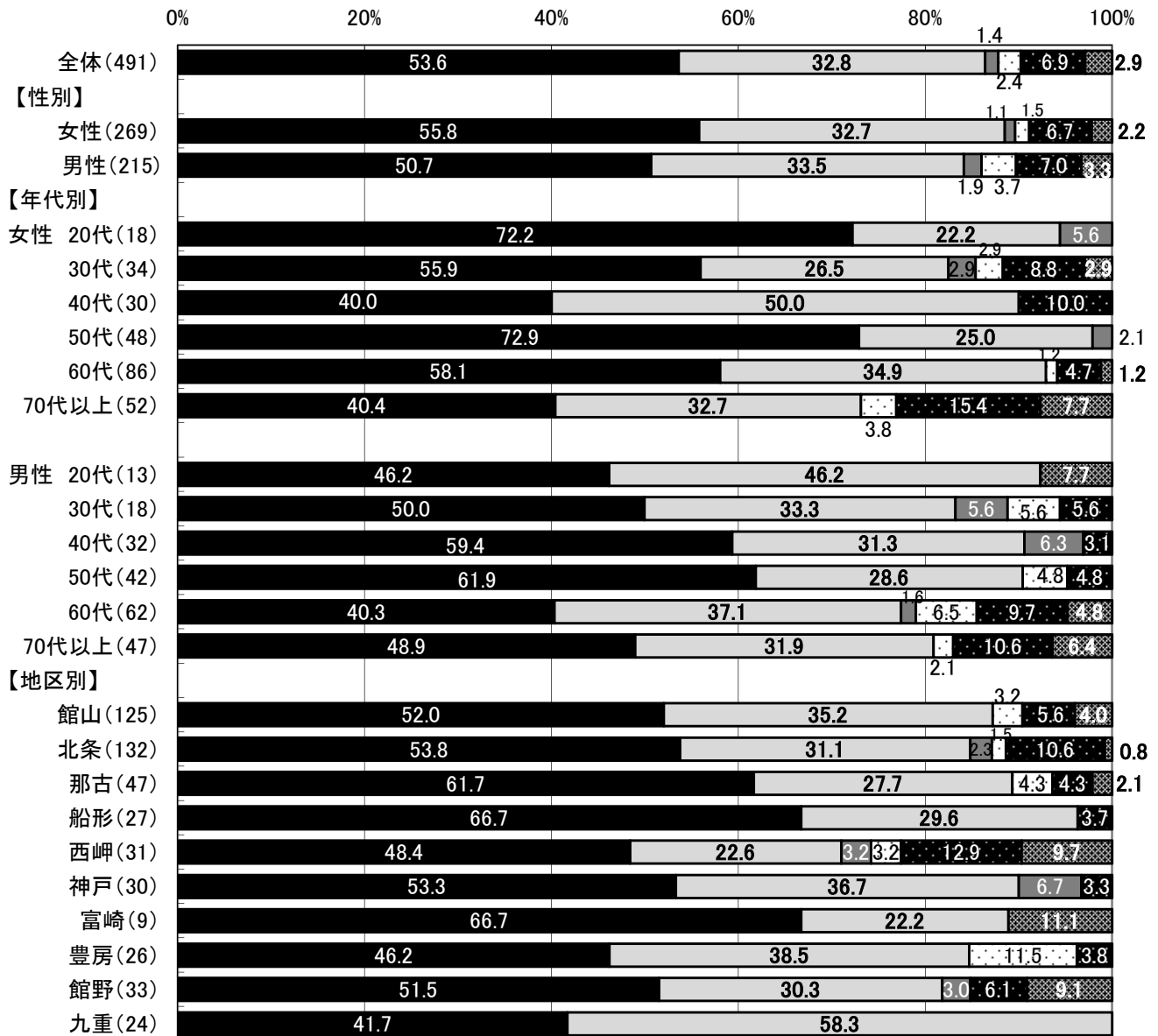
千葉県調査と比較すると、すべての項目で、館山市の方が『夫婦とも同じくらい行う』と回答している割合が低くなっており、家事等を夫婦で役割分担するという意識が千葉県よりも低いことがわかる。

## 5. 防災・災害復興対策

### (1) 女性の視点に配慮した対応

問7 防災・災害復興対策に、女性の視点に配慮した対応がとられる必要があると思いますか。次の中から1つ選んでください。

女性の視点に配慮した対応が《必要》と答えた割合が8割を超える。



■必要がある □どちらかといえば必要がある ■必要ない □どちらかといえば必要ない ■わからない ■無回答

防災・災害復興対策について、女性の視点に配慮した対応が《必要》と答えた割合が8割を超え、非常に高くなっている。

#### 【年代別】

性別による大きな差は見られないものの、年代別に見ると女性20代(94.4%)、女性50代(97.9%)、男性20代(92.4%)が非常に高いのに対し、女性70代(73.1%)、男性60代(77.4%)と、世代間で大きな違いが見られる。

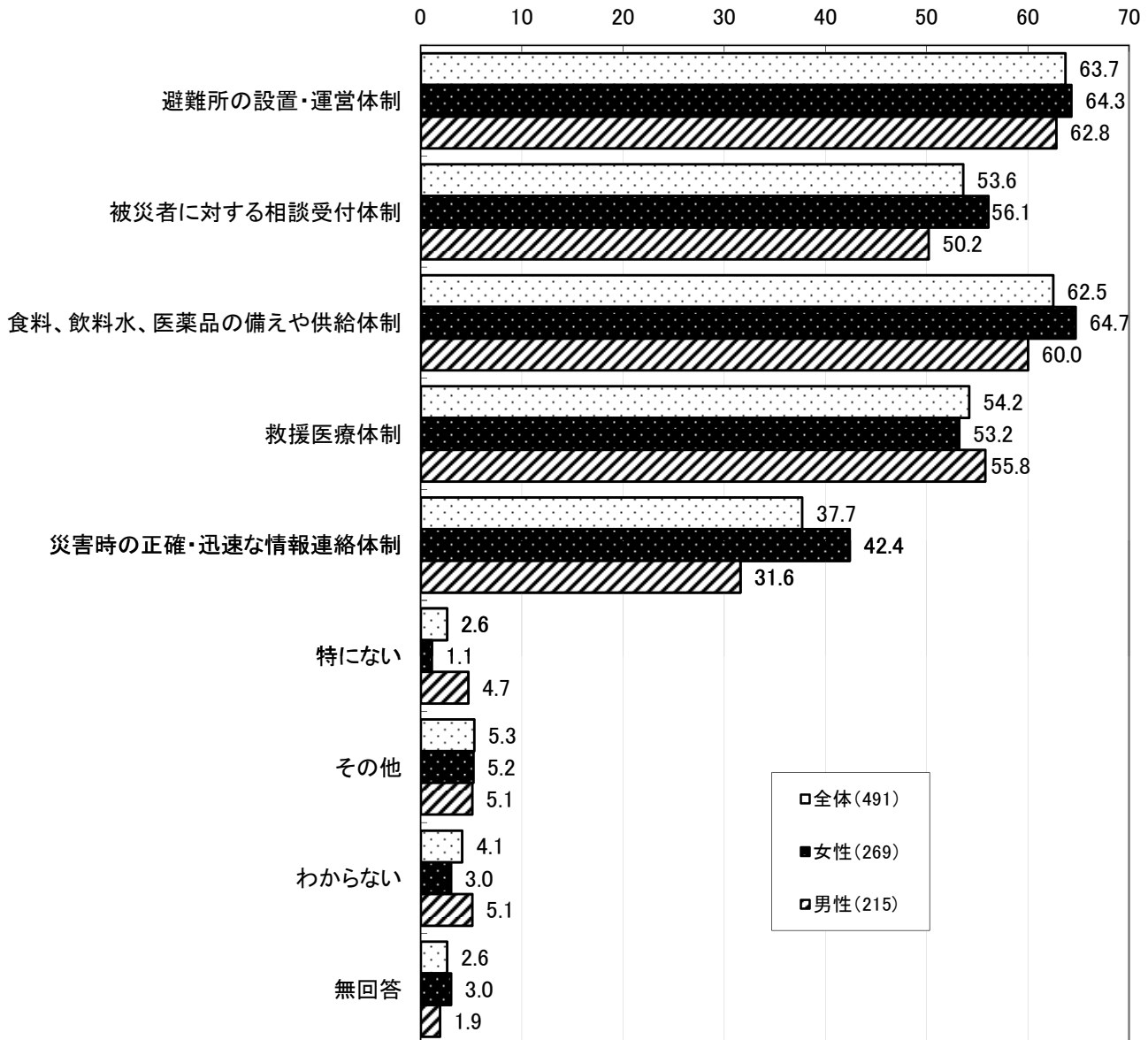
#### 【地区別】

全体を通じて《必要》と答える割合が高くなっているが、最も高い「九重」(100%)に対し、最も低い「西岬」(71%)と、地域によって大きな差が見られる。

## (2) 女性の視点に配慮する必要があるもの

問8 防災・災害復興対策で、女性の視点に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか？次の中から該当するものすべてを選んでください。

「避難所の設置・運営体制」において、女性の視点に配慮して取り組む必要があると思われる割合が高い。



防災・災害復興対策について、女性の視点に配慮して取り組む必要があると思うものを聞いたところ、「避難所の設置・運営体制」(63.7%)、「食料、飲料水、医薬品の備えや供給体制」(62.5%)が6割を超え、他項目「被災者に対する相談受付体制」(53.6%)、「救援医療体制」(54.2%)も過半数を超える高い割合となっている。

### 【年代別】

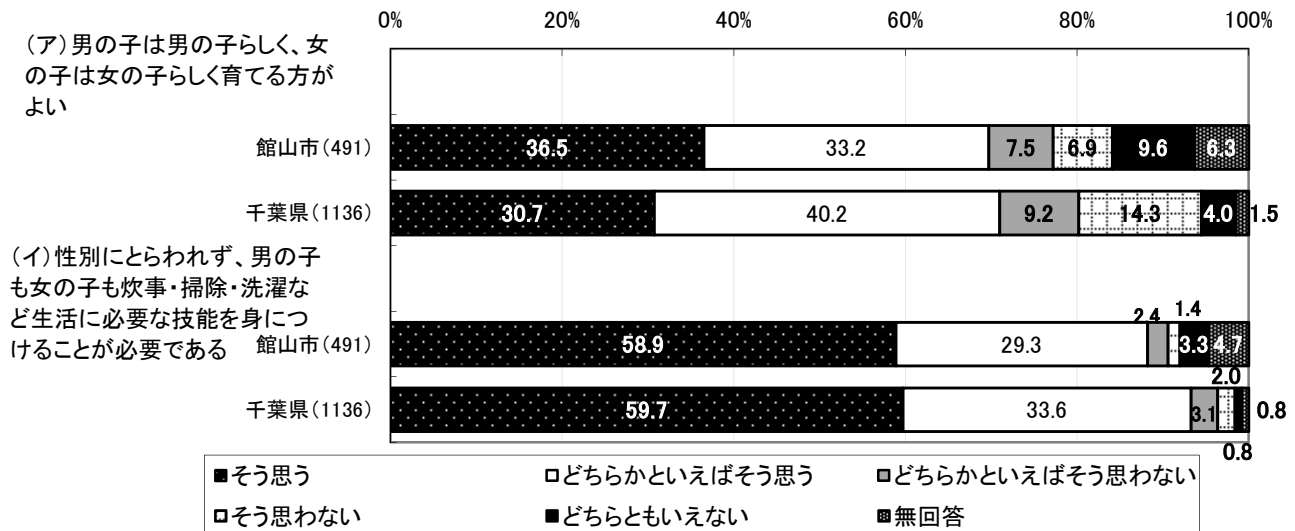
各項目、性別による大きな違いは見られないが、「災害時の正確・迅速な情報連絡体制」では、女性(42.4%)に対し、男性(31.6%)と、差が見られる。

## 6. 教育

### 子どもの教育における男女平等の意識

問9 あなたは、子どもの教育における男女平等の意識についてどう思いますか。次の(ア)～(イ)のそれぞれについて1つずつ選んでください。

「性別にとらわれず、男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけることが必要である」と考える人の割合は、9割近い。



子どもの教育における男女平等意識について聞いたところ、すべての項目で、《そう思う》と回答している割合が、《そう思わない》より高くなっている。特に、「性別にとらわれず、男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけることが必要である」で《そう思う》と回答している割合は88.2%と、非常に高くなっている。また、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」では、《そう思う》と回答している割合が59.7%で前回の53.9%よりも増加した。

#### 【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、《そう思う》と回答している割合は、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」(館山市69.7%、千葉県70.9%)、「性別にとらわれず、男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけることが必要である」(館山市88.2%、千葉県93.3%)では、館山市のほうが5.1ポイント低くなっている。

また、《そう思わない》と回答している割合は、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」(館山市14.4%、千葉県23.5%)で、館山市のほうが9.1ポイント低くなっている。

- ・《そう思う》＝「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計
- ・《そう思わない》＝「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計

## (ア)男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい

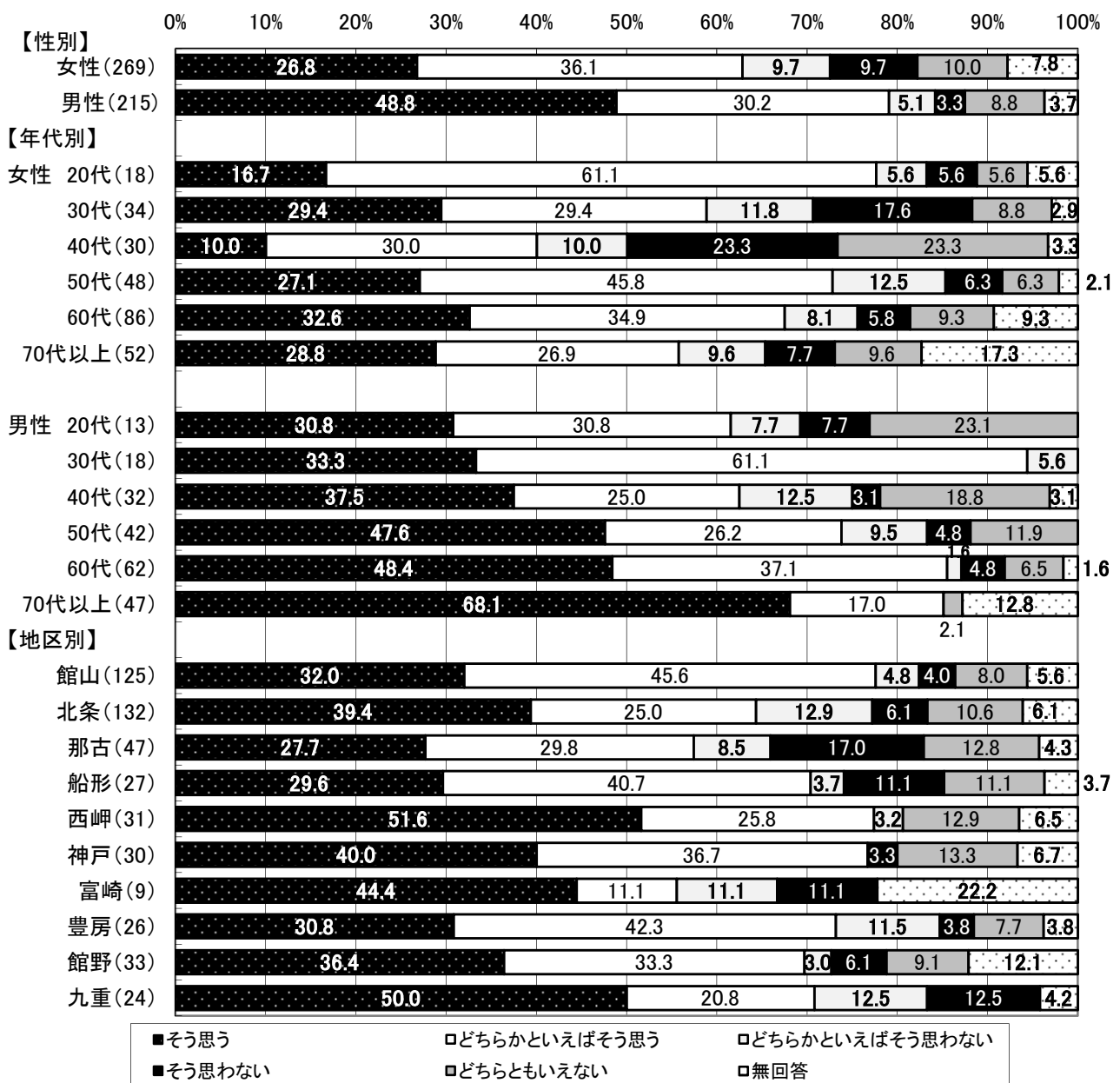
女性の62.9%、男性の79.0%が《そう思う》と回答しており、男女ともに肯定的な回答が多くなっている。

### 【年代別】

すべての年代で、《そう思わない》より《そう思う》と回答している割合が高くなっている。また、男性の30代(94.4%)で《そう思う》が最も高くなっている。

### 【地区別】

《そう思う》と回答している割合が、「館山」(77.6%)で他の地区よりも高く、最も低い「富崎」(55.5%)との差は22.1ポイントであり、地域による差が見られる。



**(イ) 性別にとらわれず、女の子も男の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけることが必要である。**

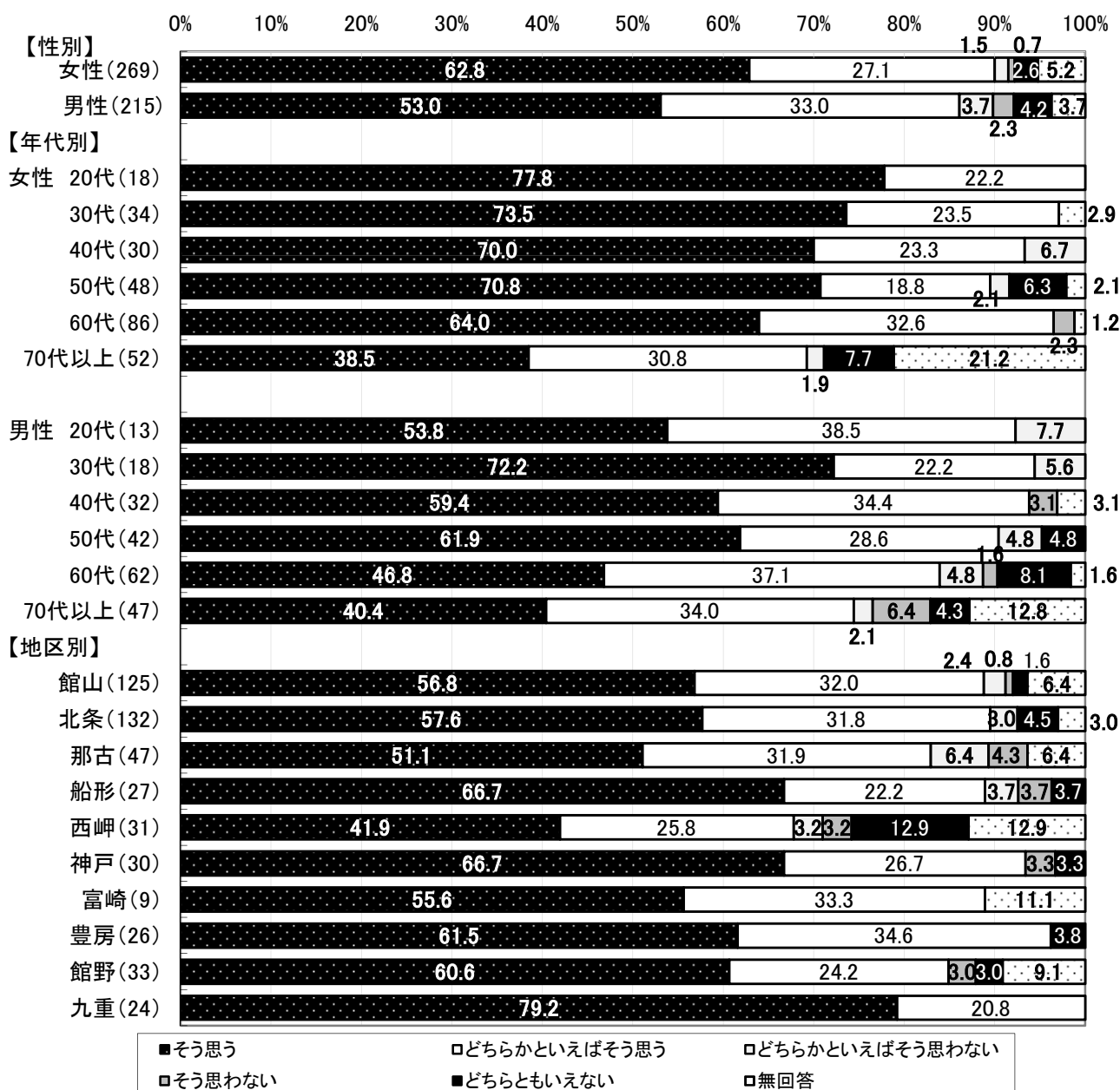
女性の89.9%、男性の86.0%が《そう思う》と回答しており、男女とも圧倒的に高い割合となっている。

**【年代別】**

男女ともすべての年代で、《そう思う》と回答している割合が、圧倒的に高くなっている。中でも女性の20代では、すべての人が《そう思う》と回答している。

**【地区別】**

すべての地区で、《そう思う》と回答している割合が、最も高くなっている。特に、「九重」では、すべての人が《そう思う》と回答している。

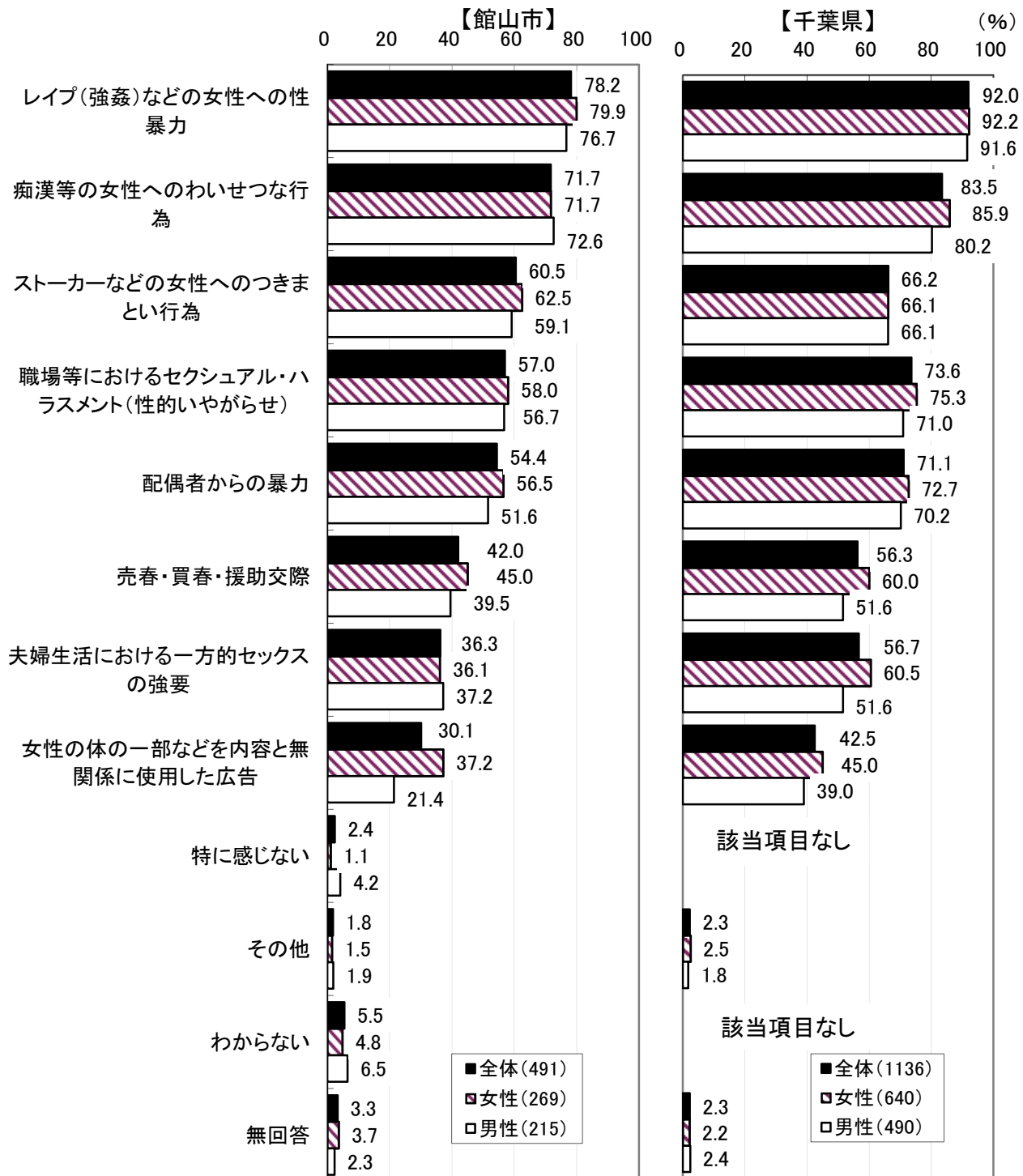


## 7. 人権

### (1) 女性の人権が侵害されていると感じること

問10 あなたは、女性の人権が侵害されていると感じるのは、どのようなことについてでしょうか。次の中から該当するものすべてを選んでください。

女性の人権が侵害されていると感じる人の割合が最も高いのは、『レイプ(強姦)などの女性への性暴力』である。





女性の人権が侵害されていると感じるのは、どのようなことかを聞いたところ、男女とも『レイプ(強姦)などの女性への性暴力』(女性79.9%、男性76.7%)と回答している割合が最も高く、次いで『痴漢等の女性へのわいせつな行為』(女性71.7%、男性72.6%)、『ストーカーなどの女性へのつきまとい行為』(女性62.5%、男性59.1%)となっており、男女ともに上位3位が同じ順である。

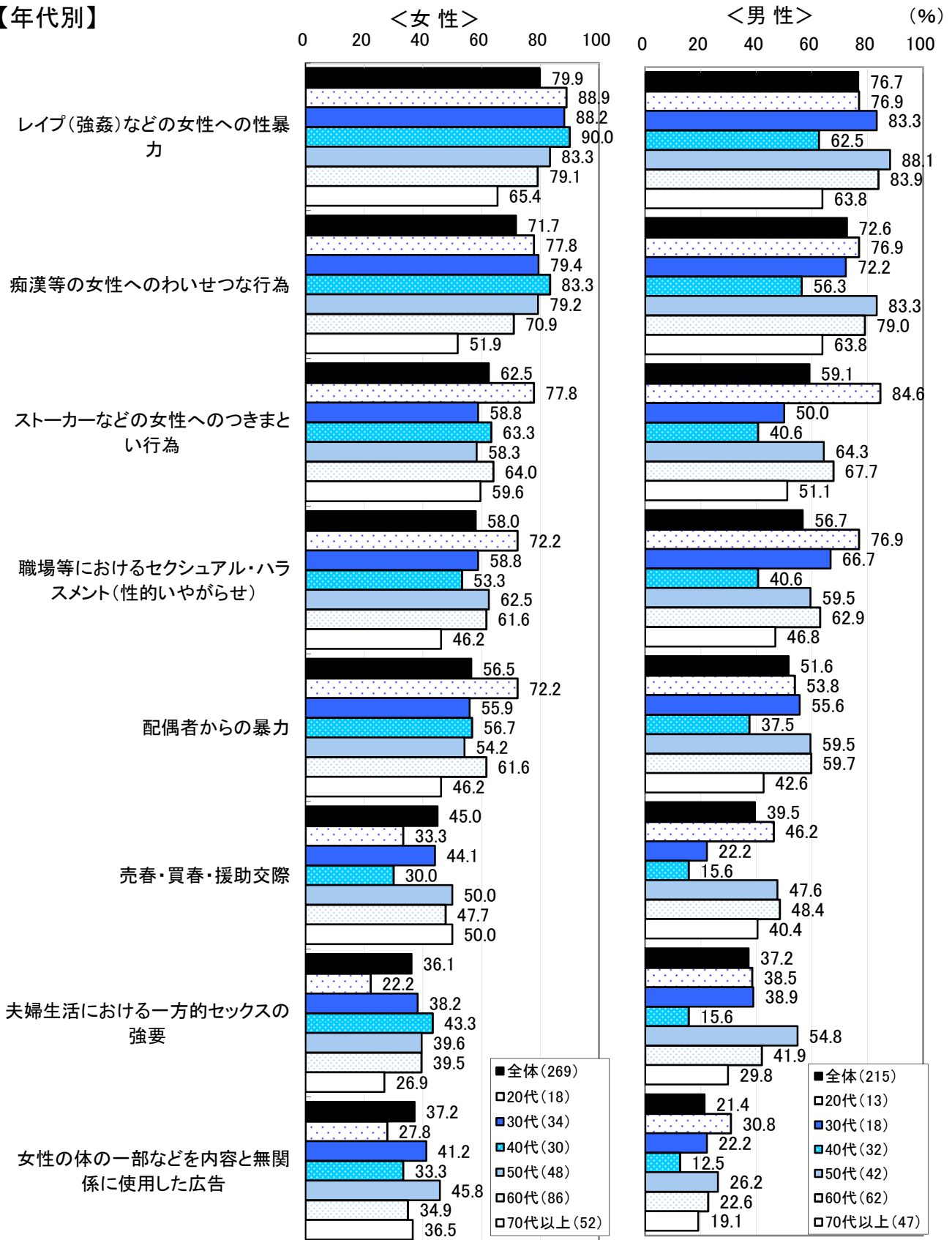
男女差がみられるものとして、『女性の体の一部などを内容と無関係にした広告』(女性37.2%、男性21.4%)で女性の回答の割合が男性より高くなっている。

#### 【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、すべての項目で、館山市のほうが千葉県よりも低い割合となっている。

前回の調査から、館山市は数値に大きな変化が見られないのに対し、千葉県は各項目20ポイント前後増加しているためと見られる。

【年代別】



※ その他、わからない、無回答については紙面の作成上省略している。なお全体値についてはP.30を参照。

『レイプ(強姦)などの女性への性暴力』と回答している割合は、女性の40代で最も高く90.0%となっている。

『ストーカーなどの女性へのつきまとい行為』は、男女とも20代において、他の年代よりも高く、女性77.8%、男性84.6%となっている。また、『職場におけるセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)』においても男女とも20代(女性72.2%、男性76.9%)が他の年代よりも高くなっている。

『配偶者からの暴力』と回答している割合が女性の20代で72.2%と最も高く、他の年代と大きく差がある。

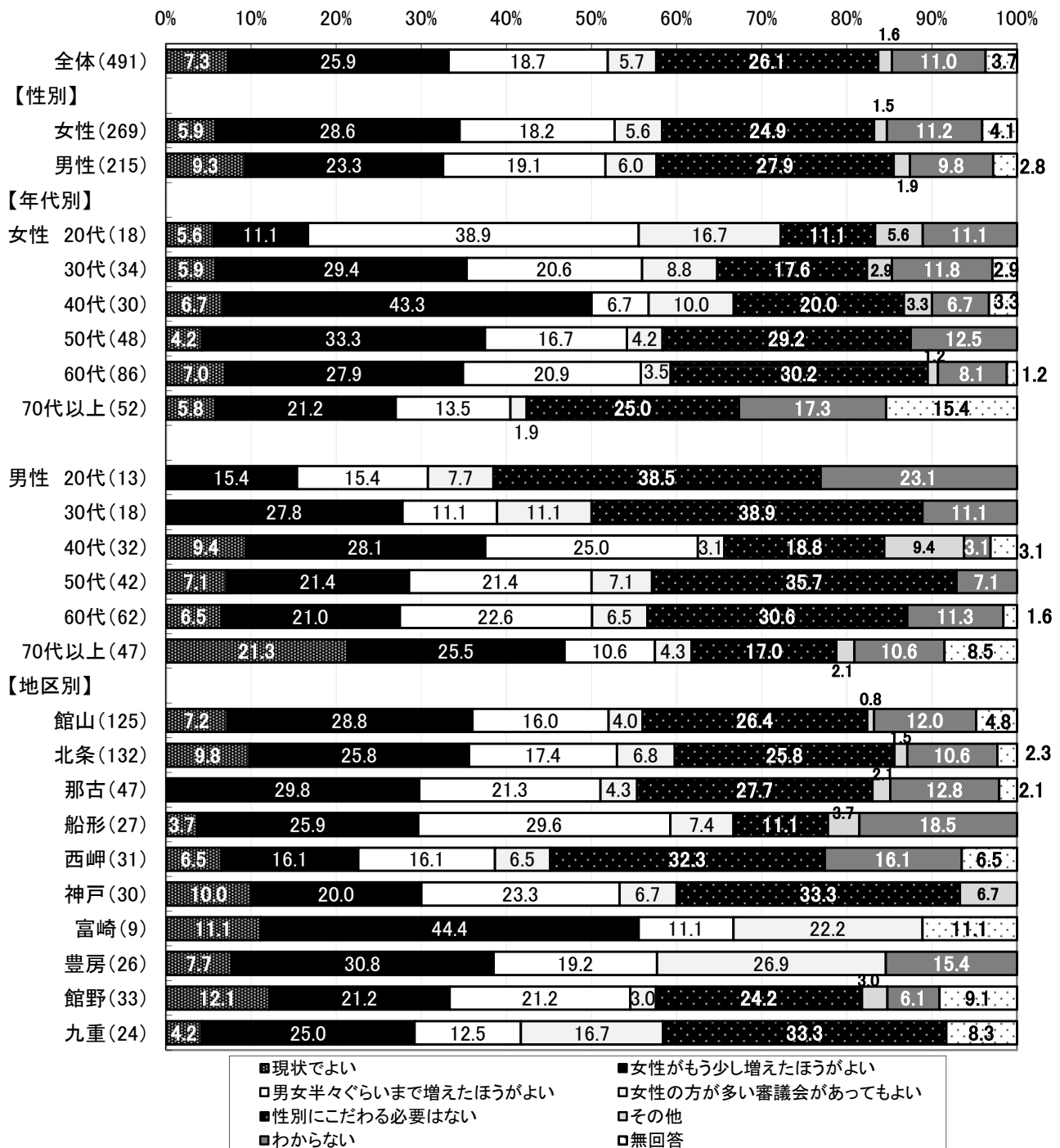
## 8. 社会活動等への参画

### (1) 審議会等への女性委員の登用について

館山市では、男女が対等な立場で参画していくことが、男女共同参画の実現に不可欠とし、審議会などの女性委員の登用率を、国・県と同様に「30%」まで引き上げるという数値目標の設定があります。

問11 平成23年4月1日現在の登用率は「26.22%」で、まだ充分とはいえません。このことについてどのように思いますか。次の中から1つ選んでください。

審議会等への女性委員の登用率の現状に対し、『女性がもう少し増えたほうがよい』、『男女半々くらいまで増えたほうがよい』と思う人の割合は4割を超える。



審議会等への女性委員の登用について聞いたところ、前回の調査では男女ともに『性別にこだわる必要はない』と回答している割合が最も高く、女性38.3%、男性34.3%であったのに対し、今回の調査では、女性は『女性がもう少し増えたほうがよい』(28.6%)、男性は『性別にこだわる必要はない』(27.9%)と回答する割合が最も高くなった。

#### 【年代別】

前回の調査では、男性の70代以上を除いた全ての年代で、『性別にこだわる必要はない』と回答している割合が高くなっていた。今回の調査でも『性別にこだわる必要はない』と回答する割合が最も高かったのは、女性は60代(30.2%)、70代以上(25.0%)、男性は40代、70代以上を除く年代であった。また、女性40代で『女性がもう少し増えたほうがよい』(43.3%)と高い割合になっている。

#### 【地区別】

「館山」、「北条」、「那古」、「富崎」で『女性がもう少し増えたほうがよい』と回答する割合が最も高く、中でも「富崎」は44.4%と高い割合になっている。

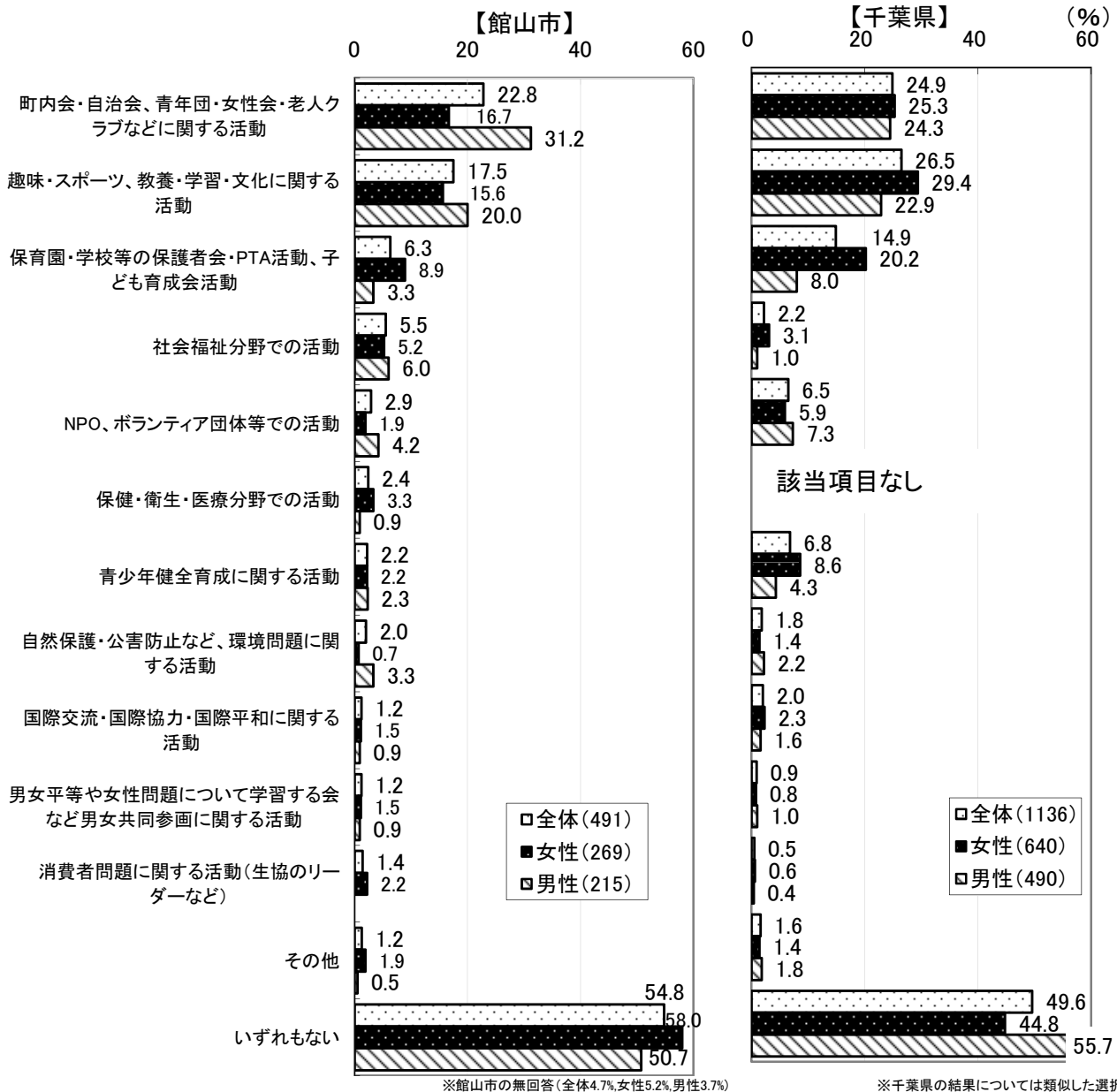
前回の調査で「西岬」、「富崎」を除く全ての地区で最も高い割合だった『性別にこだわる必要はない』が、今回の調査でも最も高かったのは「西岬」(32.3%)、「神戸」(33.3%)、「館野」(24.2%)、「九重」(33.3%)であった。

「船形」では、『男女半々ぐらいまで増えたほうがよい』と答える割合が最も高く、29.6%となっている。

## (2) 地域活動への参画状況

問12 次にあげる地域活動の中で、あなたが「現在、企画から実行までの一連の取組み（参画）をしているもの」はどれですか。次の中から該当するものすべてを選んでください。

現在、参画している地域活動は、『町内会・自治会、青年団・女性会・老人クラブなどに関する活動』が最も高くなっている。



地域活動の中で、現在参画している取組みについては、男女とも『町内会・自治会、青年団・女性会・老人クラブなどに関する活動』(女性16.7%、男性31.2%)と回答している割合が最も高くなっており、次いで『趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動』(女性15.6%、男性20.0%)となっている。第3位として、女性は『保育園・学校等の保護者会・PTA活動、子ども育成会活動』(8.9%)であるのに対し、男性は『社会福祉分野での活動』(6.0%)となっている。上位3項目は前回の調査と変わらない結果となった。

### 【千葉県調査との比較】

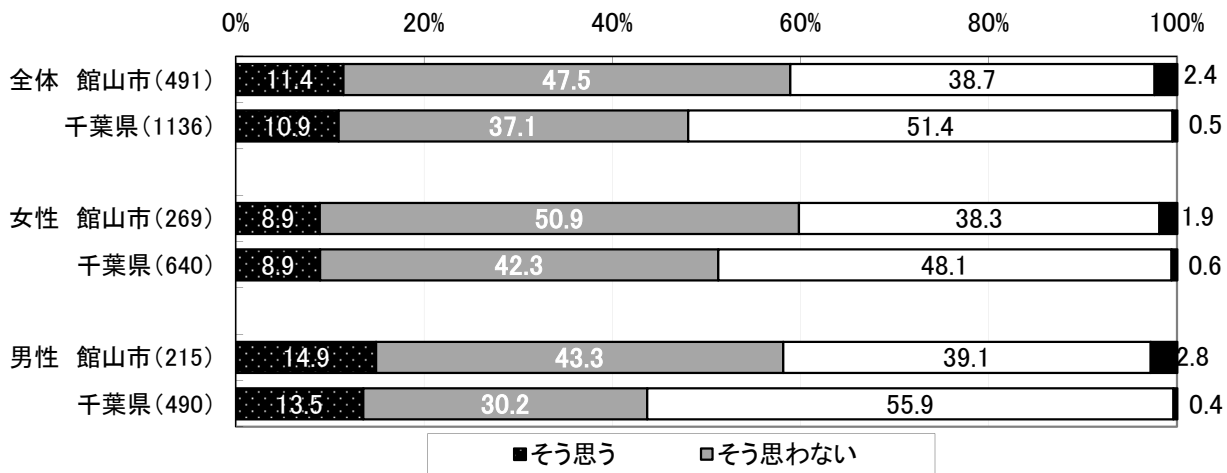
千葉県調査と比較すると、館山市では『町内会・自治会、青年団・女性会・老人クラブなどに関する活動』と回答している割合が最も高いのに対し、千葉県は『趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動』が最も高くなっている。

## 9. 働き方について

### (1)「男は仕事、女は家庭」の考え方

問14 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。次の中から1つ選んでください。

「男は仕事、女は家庭」という考えに、『そう思う』人は1割強であり、『そう思わない』人は5割強である。



「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別役割分担意識については、『そう思わない』と回答している割合は女性で50.9%、男性で43.3%であり、男女ともに『そう思う』と回答した割合を大きく上回っている。

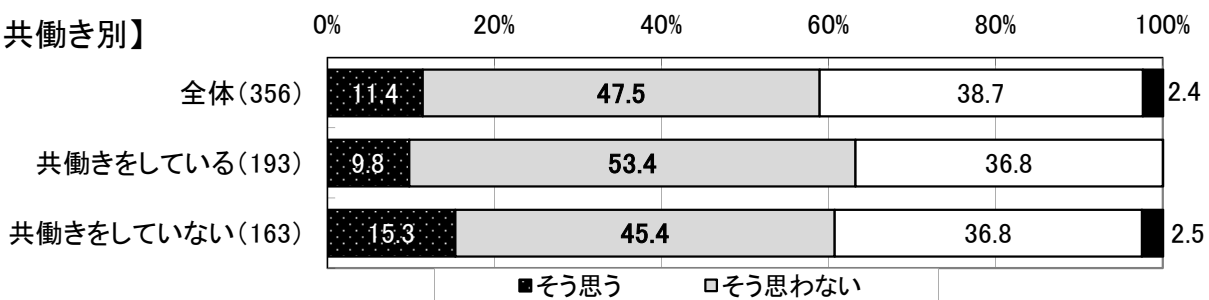
また、『そう思う』と回答している割合は、女性は8.9%であるのに対し、男性は14.9%となっており、男性の方が6ポイント高くなっている。

#### 【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、『そう思う』と回答している女性の割合が8.9%と同じであり、前回の調査(館山市12.3%、千葉県8.4%)から館山市は減少している。

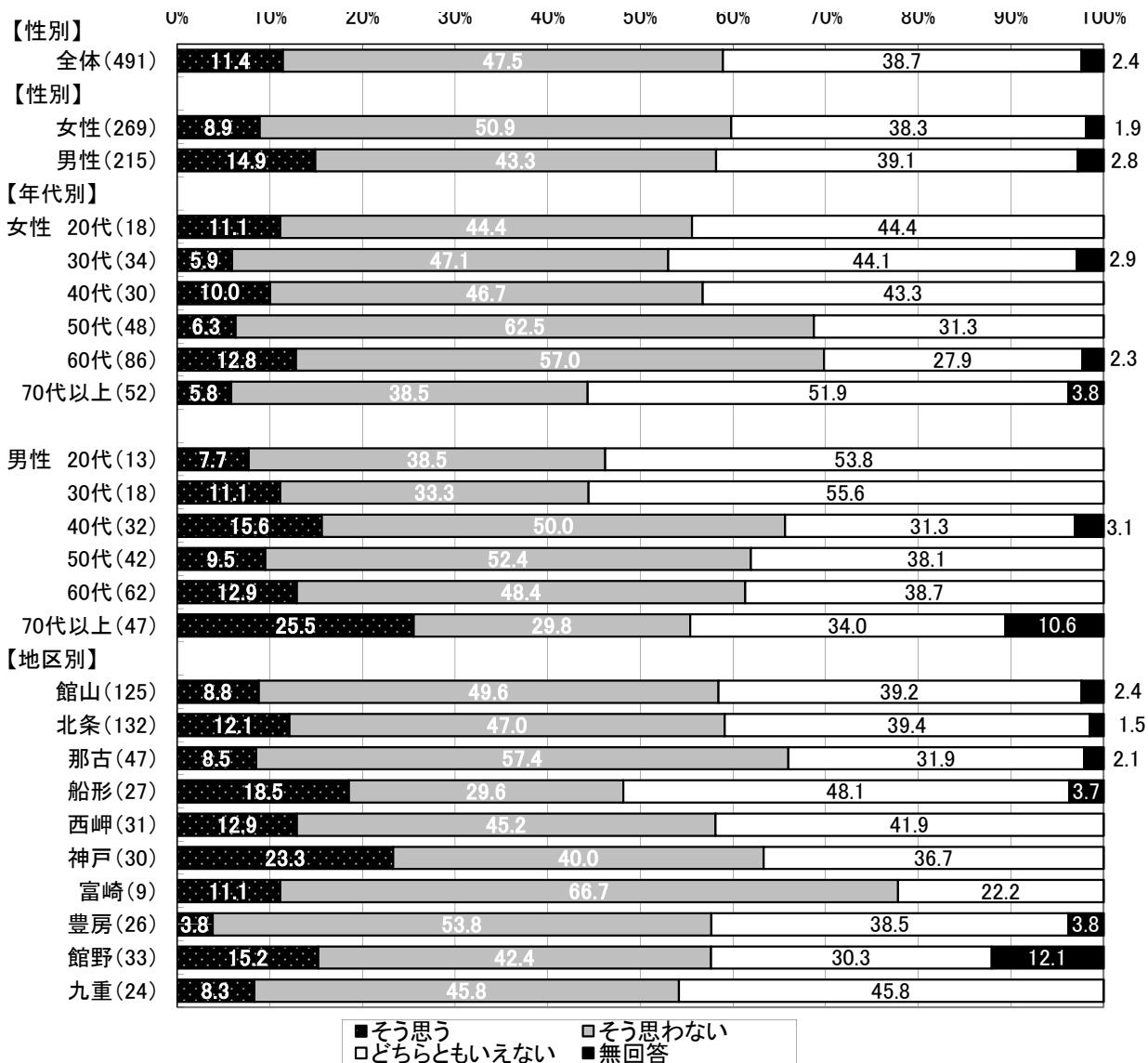
また、『そう思わない』と回答している割合は、前回は男女とも千葉県よりも低い割合であったが、今回は男女とも、高い割合となっている。

#### 【共働き別】



『そう思わない』と回答している割合は共働きをしている人で53.4%、共働きをしていない人で45.4%であり、どちらも『そう思う』と回答した割合を大きく上回っている。

また、『そう思う』と回答している割合は、共働きをしている人で9.8%であるの対し、共働きをしていない人で15.3%となっており、共働きをしていない人の方が5.5ポイント高くなっている。



【年代別】

男女ともすべての年代で、『そう思わない』と回答している割合が、『そう思う』を上回っている。『そう思う』と回答している割合が最も高かったのは、男性70代以上(25.5%)となっており、前回の調査(19.6%)よりも5.9%増加している。

【地区別】

『そう思う』と回答している割合は、「神戸」で23.3%と最も高く、「豊房」で3.8%と最も低くなっており、19.5ポイントの差がある。

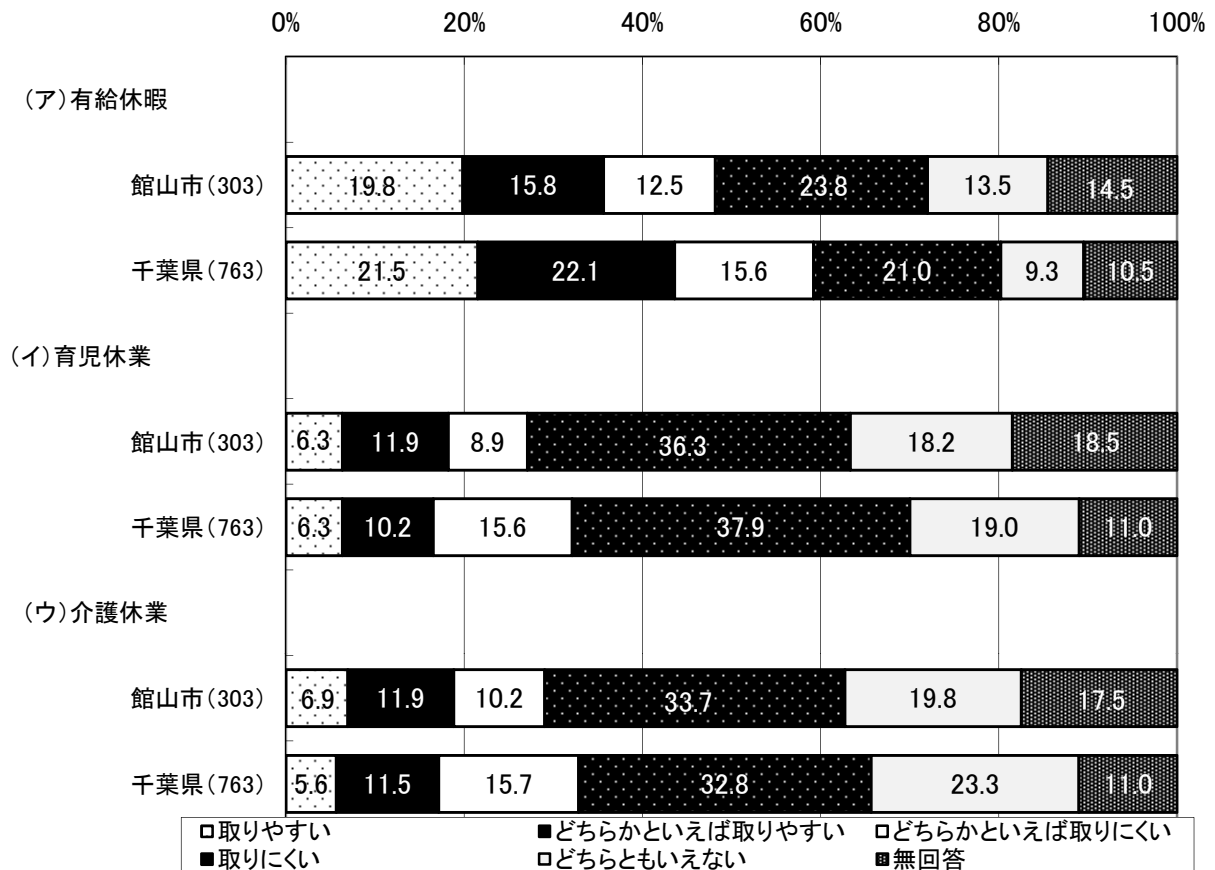
また、『そう思わない』と回答している割合は、「富崎」で66.7%と最も高く、「船形」で29.6%と最も低く37.1ポイントの差があり、地域による差がみられる。



## (2)働く環境について

問15 (1)あなたの職場では、男性職員が有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境にありますか。次の中から1つずつ選んでください。

全ての項目について、《取りにくい》と回答した割合が《取りやすい》と回答した割合を上回る。



働く環境について、男性職員が有給休暇や育児、介護休業を取りやすい環境にあるかどうかについては、「有給休暇」が最も《取りやすい》(35.6%)と回答されており、《取りにくい》(36.3%)より僅かに少ない結果となった。

その他の「育児休業」、「介護休業」についてはどちらも《取りやすい》(育児休業18.2%、介護休業18.8%)より《取りにくい》(育児休業45.2%、介護休業43.9%)と回答した割合が大きくなっており、中でも育児休業については《取りにくい》と回答した割合が《取りやすい》と回答した割合より27.0ポイント差がある。

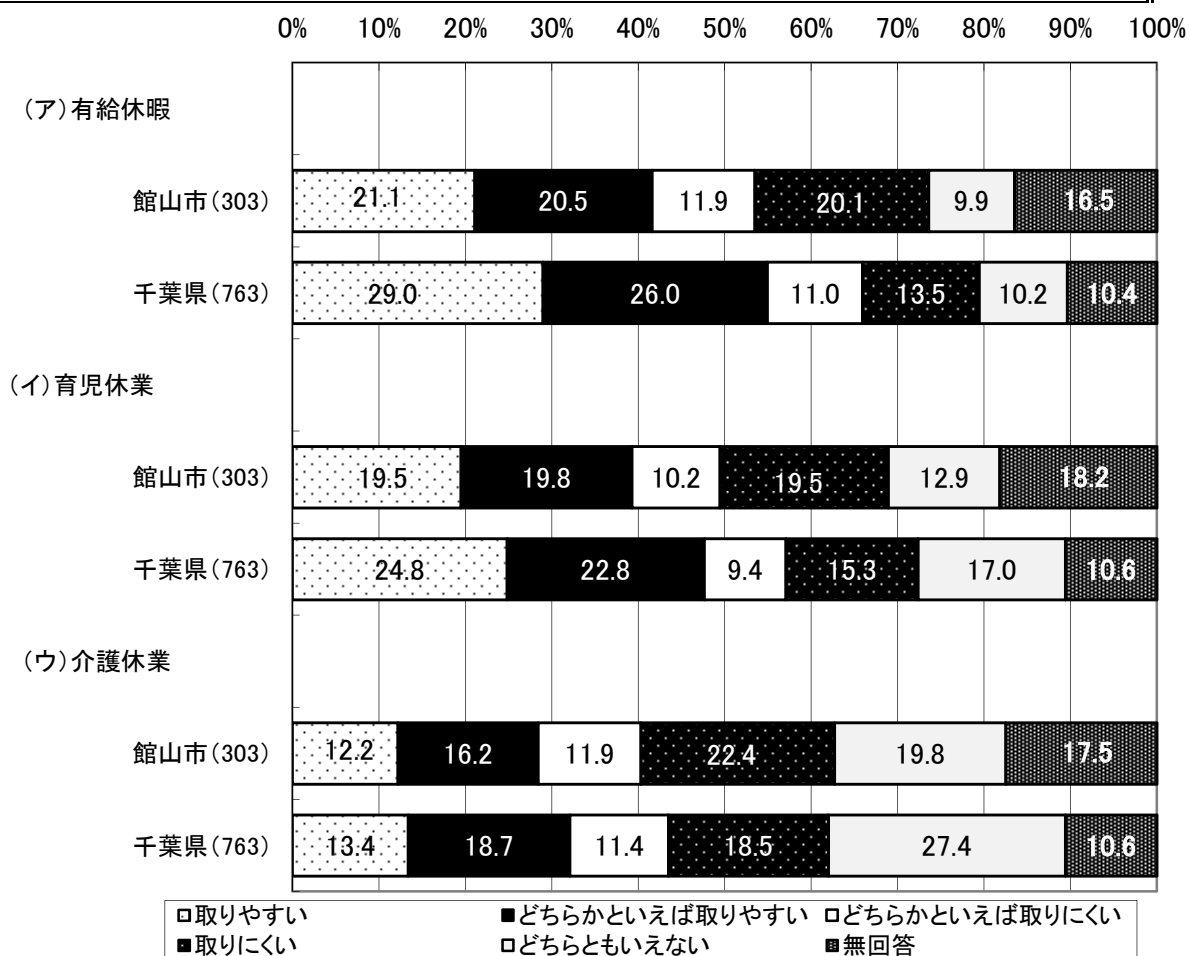
### 【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、「有給休暇」について。《取りやすい》と回答した割合が、館山市(35.6%)に対して千葉県(43.6%)と8.0ポイント差がある。

- ・《取りやすい》＝「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」の合計
- ・《取りにくい》＝「取りにくい」「どちらかといえば取りにくい」の合計

問15 (2)あなたの職場では、女性職員が有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境にありますか。次の中から1つずつ選んでください。

有給休暇と育児休業について、《取りやすい》と回答した割合は《取りにくい》と回答する割合を上回る。



働く環境について、女性職員が有給休暇や育児、介護休業を取りやすい環境にあるかどうかについては、「有給休暇」が最も《取りやすい》(41.6%)と回答されており、《取りにくい》(32.0%)より9.6ポイント高い。

「育児休業」については、《取りやすい》(39.3%)となっており、男性職員に比べると21.1ポイント高い結果となっている。

「介護休業」については《取りやすい》(28.4%)と回答する割合が《取りにくい》(34.3%)と回答する割合より低い。また、男性職員に比べると9.6ポイント高い結果となっている。

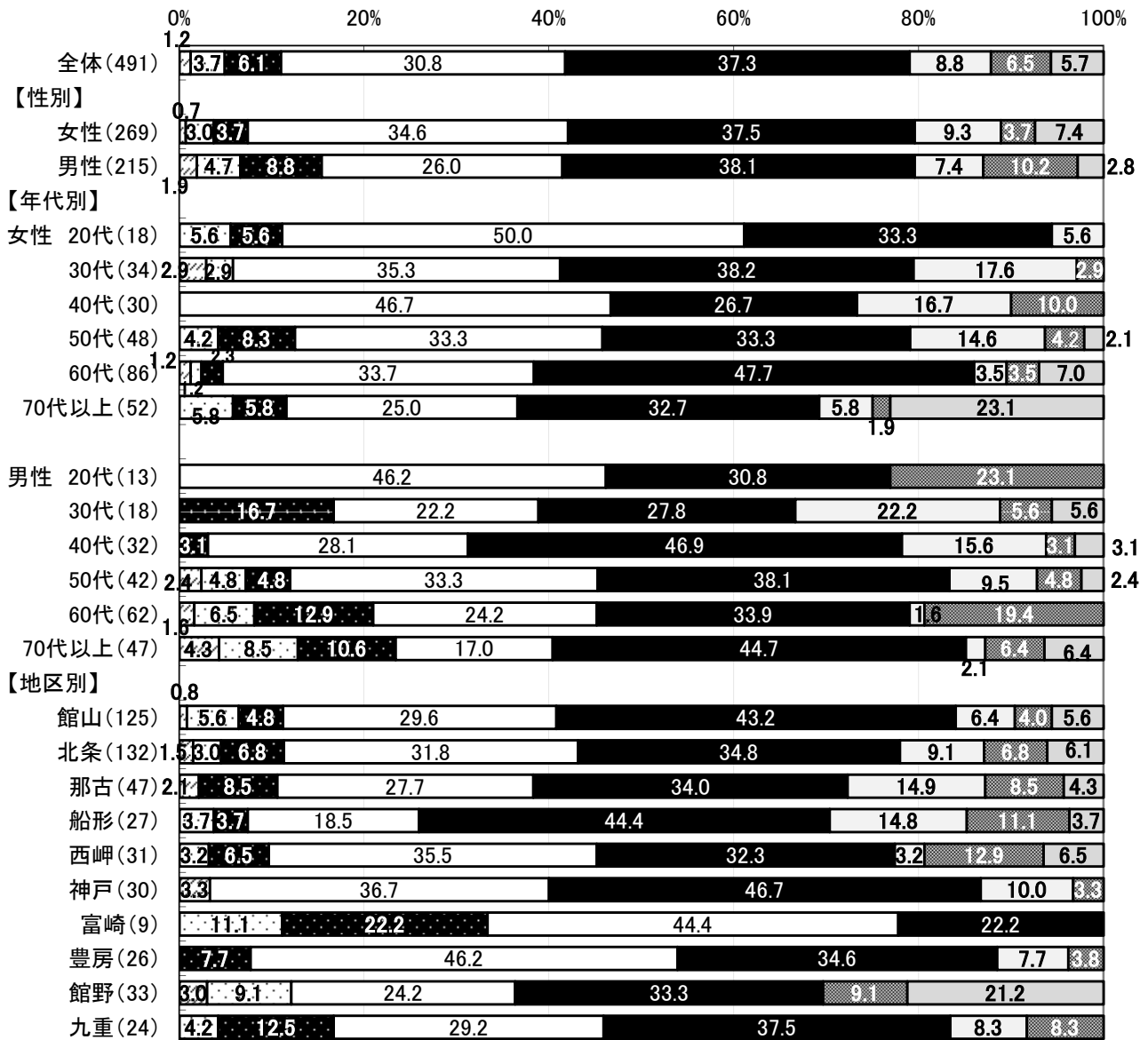
### 【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、全ての項目について、千葉県の方が《取りやすい》と回答している割合が高い。

### (3) 女性が職業をもつことについての考え

問16 あなたは、一般的に女性が職業をもつことについて、どのように考えますか。次の中から1つ選んでください。

女性が職業をもつことについて、4割弱の人が『子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい』と考えている。



- 女性は職業をもちたくない方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- わからない
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 無回答
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- その他

女性が職業をもつことについて、どう考えるか聞いたところ、男女ともに『子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい』(女性37.5%、男性38.1%)と回答している割合が最も高くなっている。次いで『子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい』(女性34.6%、男性26.0%)、『子どもができるまでは、職業をもつ方がよい』(女性3.7%、男性8.8%)となっており、男女共に同じ考えであることがわかる。

#### 【年代別】

女性の20代、40代、男性の20代では『子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい』と回答している割合が最も高く、中でも女性20代は50.0%と高い割合となっている。一方、男女ともにそれ以外の年代では、『子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい』と回答している割合が最も高くなっており、中でも女性60代が47.7%と最も高い割合になっている。

#### 【地区別】

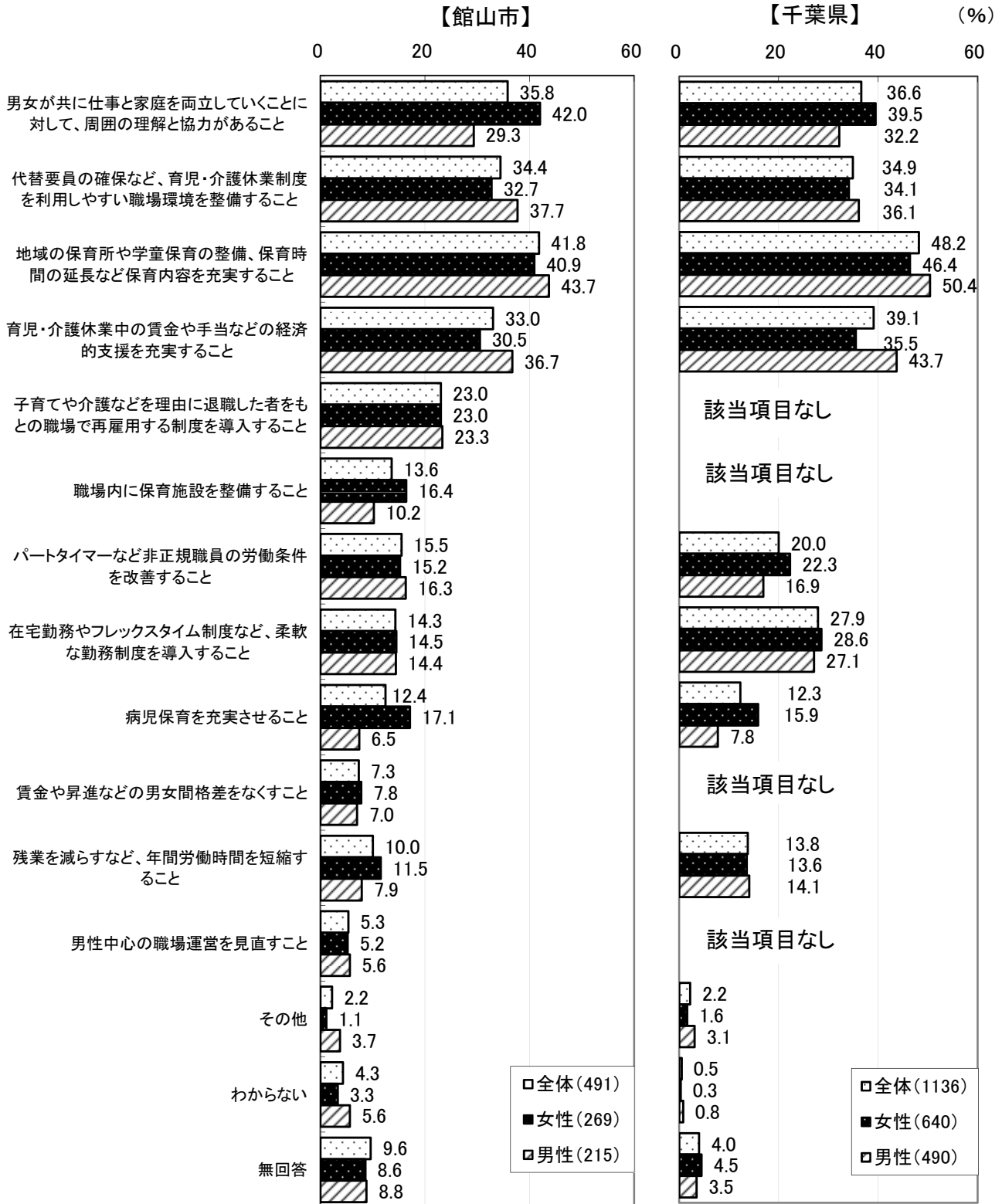
「西岬」、「富崎」、「豊房」を除く全ての地区では、『子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい』と回答する割合が最も高くなっており、中でも「神戸」(46.7%)が最も高くなっている。

「西岬」、「富崎」、「豊房」では『子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい』と答える割合が最も高く、中でも「豊房」が46.2%と最も高い。

#### (4)仕事と家庭生活の両立のために必要な環境整備

問17 一般的に、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。次の中から3つ選んでください。

男女が共に仕事と家庭を両立していくために、『保育内容を充実させること』が必要だと思う人の割合は、4割である。



※千葉県の結果については類似した選択項目にあてはめているものがある。

男女がともに仕事と家庭を両立していくために必要な環境整備について聞いたところ、女性は『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』(42.0%)と回答している割合が最も高くなっており、次いで、『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』(40.9%)、『代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること』(32.7%)、となっている。

一方、男性は『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』(43.7%)と回答している割合が最も高くなっており、次いで、『代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること』(37.7%)、『育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること』(36.7%)となっている。

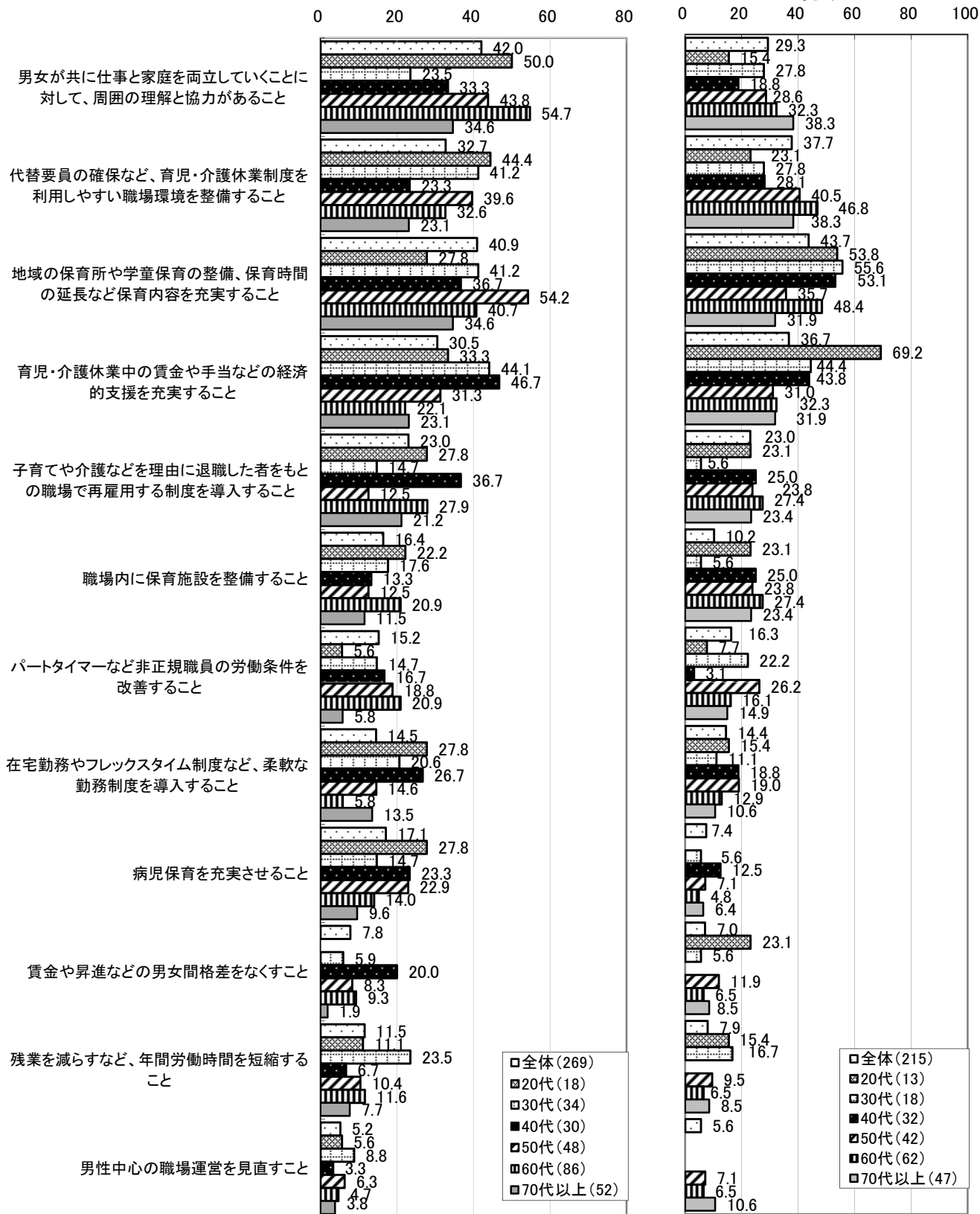
#### 【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、館山市、千葉県ともに『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』と回答している割合が最も高くなっている。また、必要だと思う上位4位は順不同だが同じ項目があがっており、館山市と千葉県では同じような環境整備が必要とされている。

【年代別】

女性

男性



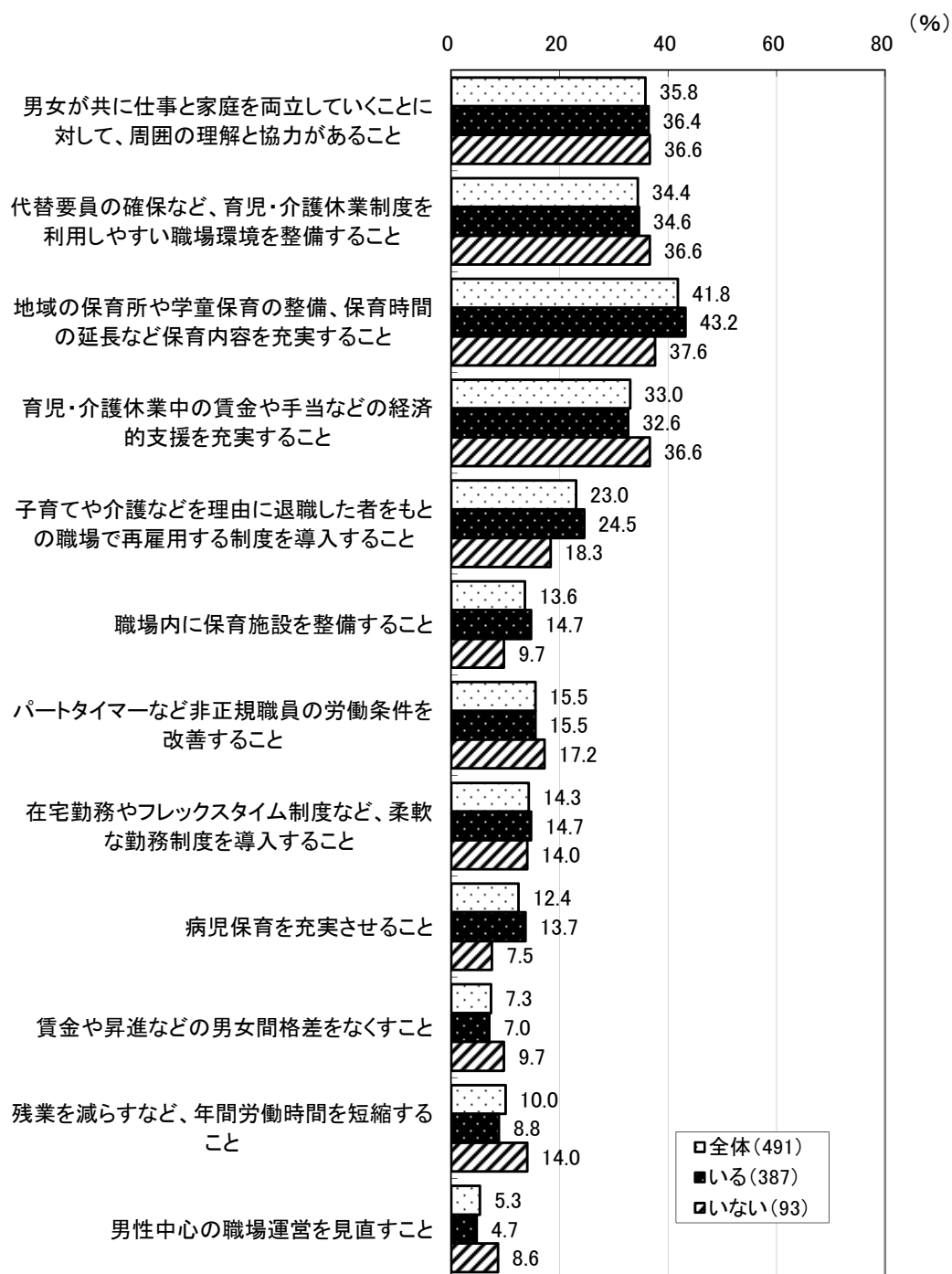
※ その他、わからない、無回答については紙面の作成上省略している。なお全体値についてはP.43を参照。

『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』は、女性50代、男性20代、30代、40代で5割を超える高い割合となっており、中でも男性30代(55.6%)と最も高くなっている。

『育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること』では、男性20代で69.2%と非常に高い割合となっている。

『残業を減らすなど、年間労働時間を短縮すること』は、男女とも30代で高い割合となっている。

## 【子どもの有無別】

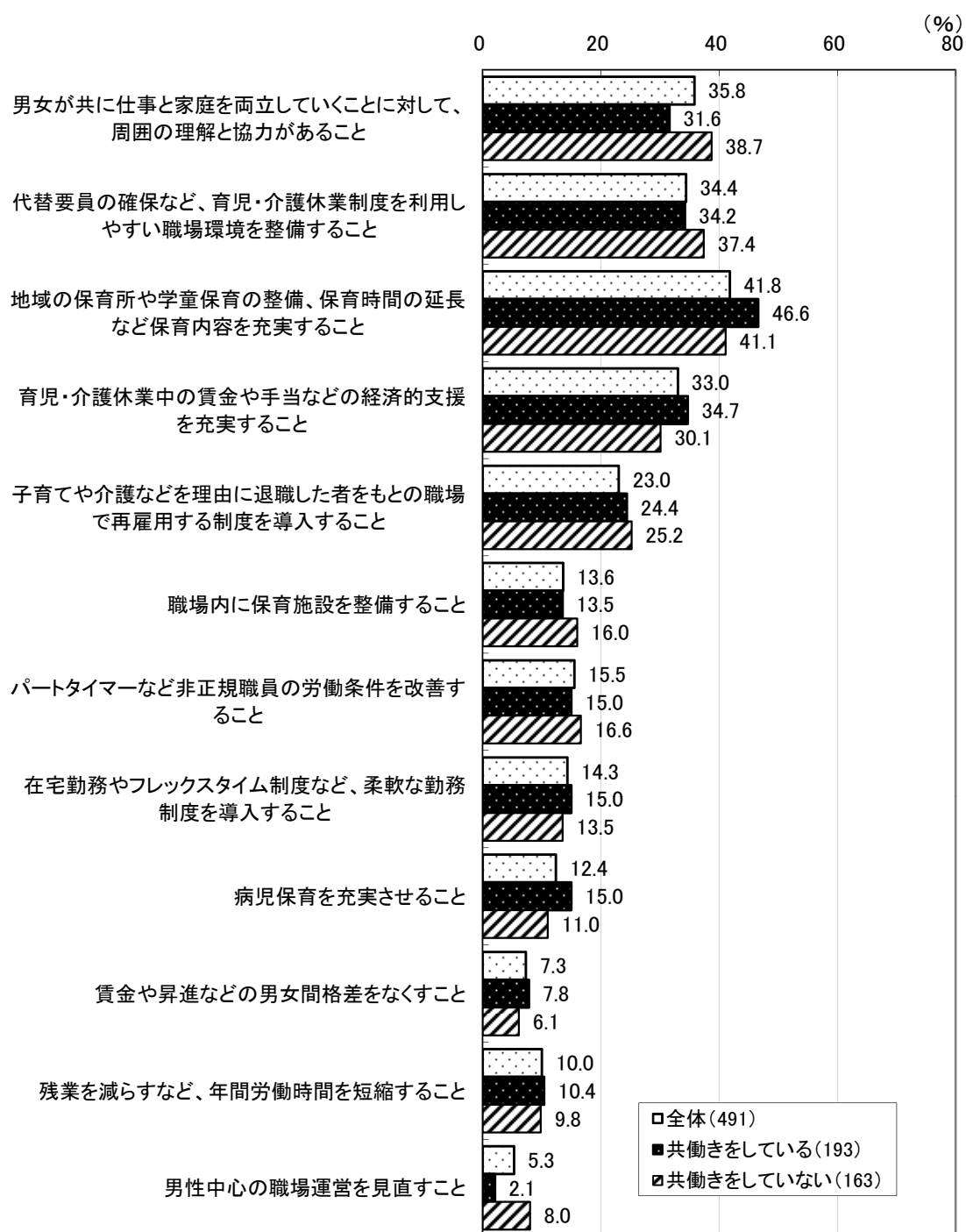


※ その他、わからない、無回答については紙面の作成上省略している。なお全体値についてはP.43を参照。

子どもの有無に関わらず、『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』(いる43.2%、いない37.6%)、『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』(いる36.4%、いない36.6%)、『代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること』(いる34.6%、いない36.6%)が上位3位となっているが、『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』については、子どもの有無で5.6ポイント差がある。



## 【共働き別】



※ その他、わからない、無回答については紙面の作成上省略している。なお全体値についてはP.43を参照。

共働き状況に関わらず、『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』（共働きをしている46.6%、していない41.1%）が最も高くなっている。次いで、共働きをしている人は、『育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること』（34.7%）、『代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること』（34.2%）となっている。一方、共働きをしていない人は、『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』（38.7%）、『代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること』（37.4%）となっている。